

令和3年 第13回

四日市市教育委員会会議案

関係資料

日時 令和3年10月27日 午前9時30分～

場所 四日市市役所 9階 教育委員会室

令和3年 第13回 教育委員会会議 議事

○議 案

四日市市指定有形文化財（工芸品）の指定について……………P 3 / 8 2

○協 議

令和3年度の教育委員会における点検及び評価について……………P 8 / 8 2

○報 告

令和3年度全国学力・学習状況調査結果の分析について……………P 1 2 / 8 2

令和3年8月定例会議の報告について……………P 5 0 / 8 2

四日市市指定有形文化財（工芸品）
の指定について

議案第27号

四日市市指定有形文化財（工芸品）の指定について

四日市市文化財保護条例（平成5年四日市市条例第17号）第5条第1項の規定に基づき、次のものを四日市市指定有形文化財（工芸品）として指定する。

令和3年10月27日提出

四日市市教育長 廣瀬琢也

四日市市指定有形文化財（工芸品）

種別	有形文化財（工芸品）
名称及び員数	檜 銘 備州長船法光 長享二年八月日 1口 (伝矢田監物所用)
所在地	四日市市山田町1912
所有者	宗教法人安性寺（代表役員 住職 竹内 宜秀）

<議案参考資料>

令和 3年 8月 16日

四日市市 教育長
廣瀬 琢也 様

四日市市文化財保護審議会
会長 桐生



文化財の指定に関する答申

令和3年1月13日付けで諮問のありました文化財の指定申請物件について、令和3年8月16日に四日市市文化財保護審議会を開催し審議を行いましたので、下記のとおり答申いたします。

記

1. 種 別 有形文化財（工芸品）
2. 名称・員数 檜 銘 備州長船法光 長享二年八月日 1口
 （伝矢田監物所用）
3. 所在地 三重県四日市市山田町1912 安性寺
4. 所有者 宗教法人 安性寺（代表役員 住職 竹内 宜秀）
5. 管理者 同 上
6. 指定申請者 同 上
7. 指定申請文化財の内容 別紙 文化財調査報告書

8. 評 価

檜は刀剣類の中では最も実戦的な武器で、戦国時代には多く作られたものの損傷も激しく、同時代作で健全な形で伝存する物は必ずしも多くない。また檜は造込の関係上、一般に刀などに見られるような地刃の特徴を見出し難く、かつ茎幅が狭く鑿が鮮明で無いことも多い。本作も経年的な研ぎ減りがみられ、銘に不鮮明な点はあるが、長享二年紀のある長船法光作である。柄に接した塩首部分が長く独特な造



込等は、同時代の備前物に共通し、地には刃文の影が映ったように白っぽくみえる映りも備前物の特徴である。匂い口がしまり地と刃文の境界がくっきりとして互の目の刃文などにその特徴が表れていて正真作と鑑られる。

また、本作には矢田監物所用との伝承がある。人物と所用とを裏付ける確かな史料を現状では提示できないが、時代的な蓋然性があり、所用者にかかる地元の伝承を次代へとつなぐ資料の一としての価値がある。槍 銘「備州長船法光 長享二年八月日」は上記の評価の通り「四日市市教育委員会指定文化財の指定基準（内規）有形文化財（工芸品）」を満たすものであり、本市にとって貴重な工芸品のため、市の有形文化財に指定することが適当であると認められる。

9. 審議の結果

令和3年8月16日の四日市市文化財保護審議会において審議を行った。「槍 銘 備州長船法光 長享二年八月日（矢田監物所用）」は上記の評価の通り、本作は矢田監物伝承と、時代的な蓋然性があり、所用者にかかる地元の伝承を次代へとつなぐ資料の一としての価値があるということから、四日市市教育委員会指定文化財の指定基準（内規）有形文化財（工芸品）の2「この地方にとって文化史上貴重なもの」を満たす。長享二年紀（1488）のある長船法光作で、塩首の長い独特な造込は室町時代の特徴を示しており、さらに地への映り等は、同時代の備前物に共通し、互の目の刃文などにその特徴が表れていて正真作と鑑られることから同指定基準の4「題材・品質・形状又は技法等の点で顕著な特異性を示すもの」を満たすものであり、本市にとって貴重な工芸品のため、市の有形文化財に指定することが適当であると認められる。

指定名称については「槍 銘 備州長船法光 長享二年八月日（伝矢田監物所用）」とし、指定の種別は有形文化財（工芸品）とすることが適当である。

10. 答申までの経過

- 令和2年12月16日 安性寺より四日市市指定有形文化財申請書提出される
- 令和3年 1月13日 市教育委員会定例会で文化財保護審議会への諮問を採択
- 令和3年 2月 4日 諮問を受け、令和2年度第2回文化財保護審議会において臨時委員への調査を採択
- 令和3年 6月 1日 文化財保護審議会臨時委員に福井款彦氏を委嘱
- 7月28日 専門委員による調査
- 8月16日 令和3年度第1回文化財保護審議会において、指定について審議・答申

○四日市市文化財保護条例（抜粋）

第2章 四日市市指定有形文化財
(指定)

第5条 委員会は、市域内に存する有形文化財(法第27条第1項の規定により重要文化財に指定されたもの及び県条例第5条第1項の規定により三重県指定有形文化財に指定されたものを除く。以下同じ。)のうち市にとって重要なものを四日市市指定有形文化財(以下「市指定有形文化財」という。)に指定することができる。

2 前項の規定による指定をするときは、委員会は、あらかじめ指定しようとする有形文化財の所有者及び権原に基づく占有者の同意を得るものとする。ただし、所有者又は権原に基づく占有者が判明しない場合は、この限りでない。

3 第1項の規定による指定をするときは、委員会は、あらかじめ四日市市文化財保護審議会に諮問するものとする。

4 第1項の規定による指定は、その旨を告示するとともに、当該有形文化財の所有者及び権原に基づく占有者に通知して行う。

5 第1項の規定による指定は、前項の規定による告示があった日からその効力を生ずる。

6 第1項の規定による指定をしたときは、委員会は、当該市指定有形文化財の所有者に指定書を交付するものとする。

令和3年度の教育委員会における
点検及び評価について

令和3年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等に

学識経験者の知見の活用を図るための実施計画(案)

令和3年10月
四日市市教育委員会

1. 目的

- (1) 教育委員会が、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(地教行法)の一部改正に伴う「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等」を実施するにあたり、教育に関して学識経験を有する者の知見の活用を図るという目的に資する。
- (2) 本市の学校評価のシステム全体を検証するとともに、教育委員会が学校に対して行う施策の改善に資する。
 - ◆ (1)については、地教行法に以下のように規定されている。

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関して学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。
 - ◆ (2)については、本実施計画では、本市の学校評価システムの根幹となる各学校の学校評価のあり方について意見を求めるとともに、各学校が行っている学校評価を教育委員会が行う学校への支援にどのようにつなげていくのかについての意見交換を行う。

2. 四日市市教育施策評価委員

(1) 委員の委嘱

- ・ 教育委員会が5名程度の委員を委嘱する。
- ・ 委員は、教育施策及び学校経営・教育活動について、専門的・客観的な立場で評価することができ、教育委員会及び学校の運営に直接関係がない者とする。

※ 令和2年度委員

草薙 明	(教職経験者)
岩崎 祐子	(四日市大学総合政策学部特任教授)
織田 泰幸	(三重大学教育学部准教授)
松崎 稚弓	(元四日市市教育委員)
岡田 真次	(三重県立四日市西高等学校長)

(2) 役割

- ① 四日市市学校教育ビジョンを基盤とした本市の教育施策全体について、抽出した学校や関係施設の訪問、各学校から提出された評価に関する文書や教育施策を取りまとめた学校教育白書等を参照することにより、客観的な立場から、専門的な提言・助言を行う。
- ② 抽出した学校の訪問や各学校から提出された評価に関する文書から、各学校の取組を専門的・客観的な立場から評価することを通して、教育委員会の方針・施策が学校現場に浸透し生かされているかどうかを検証する。
- ③ 上記に係る報告書を各委員が教育委員会に提出する。

3. 令和3年度施策評価実施計画（案）

実施日程

教育委員会		教育施策評価委員会	市議会報告
10月	重点評価項目選定		
3月	第1回視察報告	1～2月 視察・施策評価*	
5月	協議（目的・効果の検証）		報告書提出
7月	協議（点検・評価の総括）、重点評価項目選定		
8月	報告書作成		

※学校や施設等の視察については、重点評価項目に合わせて1～2か所（校）とする。

4. 本年度の評価項目

令和3年度は、令和2年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、日常の授業や学校行事などの学校教育活動においては可能な限り児童生徒の学びを止めないよう制限や制約を加えながら取組を進めている。加えて、ICT環境の急速な環境整備も進み、1人1台学習者用タブレット端末が配備されるなど、子どもたちを取り巻く教育環境も大きく変容している。したがって、令和3年度の施策評価項目については、教育ビジョンに示された6つの基本目標にもとづいた各施策の取り組み状況を踏まえるとともに、教育を取り巻く新たな課題に対応するために重要となる重点評価項目を選定し、評価を行い、第4次四日市市学校教育ビジョンの具体的な施策の推進につなげていきたい。評価にあたっては、学校視察等を行い、学校現場等における施策の具体的な実施状況を把握するとともに、その成果や課題について検証する。

○施策評価重点項目（案）

（案1）ICTを活用した教育の充実・発展（基本目標1 確かな学力の定着）

【提案理由】 学習指導要領では、情報活用能力の育成を図るため、必要なICT環境を整えるとともに、各教科等でこれらを適切に活用した学習活動の充実を図ることと示されている。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大は社会全体のデジタル化、オンライン化を大きく促進し、本市の小中学校においても、今年度から1人1台学習者用タブレット端末が導入され、授業での活用を行うとともに、2学期初めの臨時休業期間におけるオンライン授業の実施など、取組が進んでいる。四日市市GIGAスクール構想で目指す個別最適な学びと協働的な学びの実現のための取組において、特に個別最適な学びの実現に向けた学習者用タブレット端末の活用について検証する。

（案2）生徒指導の充実～不登校児童生徒への支援体制の充実～**（基本目標2 豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成）**

【提案理由】 令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（文部科学省）の結果において、不登校児童生徒が連続して増加している現状が報告された。増加の原因の1つとして、令和元年度末からの新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う臨時休業等の影響から、生活環境の変化による生活リズムの乱れや学校生活における様々な制限の中での交友関係の築きにくさが指摘されている。本市の不登校児童生徒の発生率については、令和2年度は令和元年度の2倍近くとなっており、本市では、不登校対策事業として、登校サポートセンターや校内ふれあい教室における取組など、児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう支援体制を整えている。今後は、さらなる取組の充実を図るため、不登校や長期欠席に係る分析や取組について検証を行う必要がある。

（案3）人権教育の充実（基本目標2 豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成）

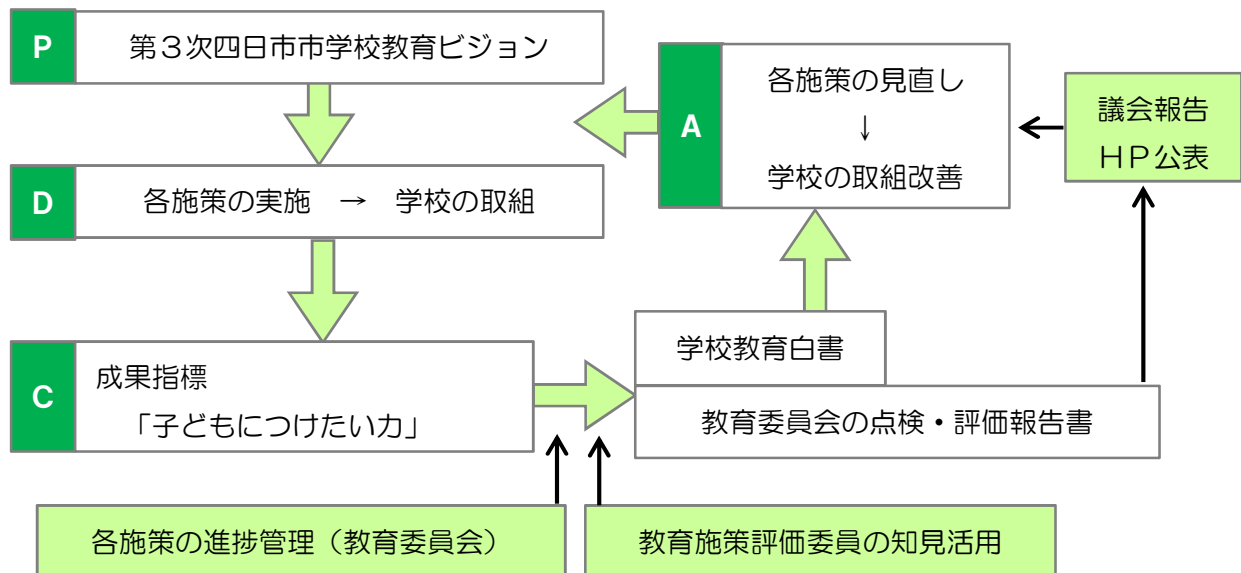
【提案理由】 本市では、人権課題を主体的に解決しようとする子どもの育成を図るために、人権教育カリキュラム等の整備に努めるとともに、子ども人権フォーラムを開催してきた。また、今年度から実施されている四日市市総合計画の中では、インターネット時代における、メディア・リテラシー養成を通じた人権教育の推進を掲げている。複雑化・多様化していく社会において、子どもたちの自己実現のため、人権意識を高める取組は一層重要となることから、本施策の状況を視察し、その効果について検証する。

ビジョンの進捗管理と評価

(第3次四日市市学校教育ビジョン P13 より抜粋)

本市教育委員会では、平成21年度から四日市市教育施策評価委員を委嘱し、専門的・客観的な立場からの提言や助言を基に、本市学校教育ビジョンを基盤とした教育施策及び学校評価システムについて、点検及び評価を進めています。学校教育ビジョンは、本市学校教育の根幹として位置付けられるものであることから、ビジョンの進捗管理とともに、成果指標に基づく評価を実施します。

また、基本目標の各施策については、具体的な取組指標に基づき、取組の進捗管理及び評価をするとともに、その結果については、「教育委員会の点検・評価報告書」及び「学校教育白書」で報告していきます。



<四日市市学校評価システム>

- ◆本市では、四日市市学校教育ビジョンを受けて、各学校が「学校づくりビジョン」を策定し、学校経営を行っています。
- ◆学校評価に関して、各学校から教育委員会へ、以下の報告書が提出されます。
 - ①自己評価書
 - ・学校づくりビジョンの重点目標に対する評価、学校経営に対する評価等
 - ②学校関係者評価書
 - ・四日市版コミュニティスクール運営協議会、学校づくり協力者会議による評価
- ◆学校教育白書は、四日市市学校教育ビジョンの諸施策の評価資料として位置付けています。これに基づき、教育委員会の点検・評価報告書を作成しています。

※PDCA サイクル

=Plan (計画)、Do (実行)、Check (評価)、Action (改善) の業務改善システム

令和3年度全国学力・学習状況
調査結果の分析について

令和3年度

全国学力・学習状況調査結果の分析

令和3年10月

四日市市教育委員会

目 次

1	全国学力・学習状況調査結果の5年間の推移	p 2
2	教科別 正答数分布グラフ	p 4
3	校種・教科別 調査結果概要	p 6
4	授業改善のポイントについて	p 10
	【小学校国語】【小学校算数】【中学校国語】【中学校数学】	
5	児童生徒質問紙の結果について	
	(1) 教科の意識に関する質問	p 14
	(2) 「学習の基盤となる力」に関する質問	p 18
	(3) 学校生活等の意識に関する質問	p 22
	(4) 生活習慣と学力の関連	p 24
	(5) 新教育プログラム(①②③⑤)と関連する質問	p 26
6	学校質問紙の結果について	
	(1) 全国学力・学習状況調査問題の活用	p 29
	(2) 全国学力・学習状況調査の趣旨等を踏まえた授業改善	p 29
	(3) 学習習慣の確立と学習補充の充実	p 30
	(4) 授業づくりの工夫	p 31
	(5) 小中の連携(学びの一体化)	p 32
	(6) ICTの活用	p 32
7	今後の取り組みの重点	p 33
8	参考資料	p 35

1 全国学力・学習状況調査結果の5年間の推移 (H28～)

※ 平成29年度から、文部科学省の結果提供（平均正答率）は、本市と三重県は整数値、全国は小数値となっています。

※ 令和元年度より、A問題（知識）とB問題（活用）の区分が見直され、一体的に構成されています。

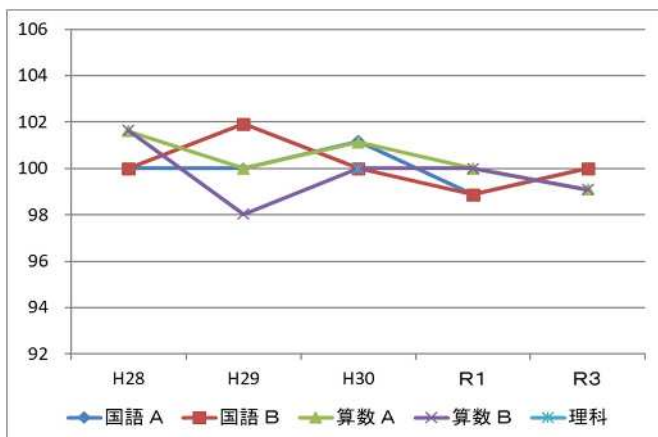
※ 数値は平均正答率。

小学校		国語		算数		理科
		A (知識)	B (活用)	A (知識)	B (活用)	
平成28年度	本市	72.5	58.0	78.7	47.5	
	三重県	71.7	58.1	78.3	47.1	
	全国(公立)	72.9	57.8	77.6	47.2	
平成29年度	本市	75	59	78	45	
	三重県	74	57	77	45	
	全国(公立)	74.8	57.5	78.6	45.9	
平成30年度	本市	71	55	65	51	60
	三重県	70	54	63	50	59
	全国(公立)	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3
令和元年度	本市	63		66		
	三重県	64		67		
	全国(公立)	63.8		66.6		
令和3年度	本市	65		70		
	三重県	64		69		
	全国(公立)	64.7		70.2		

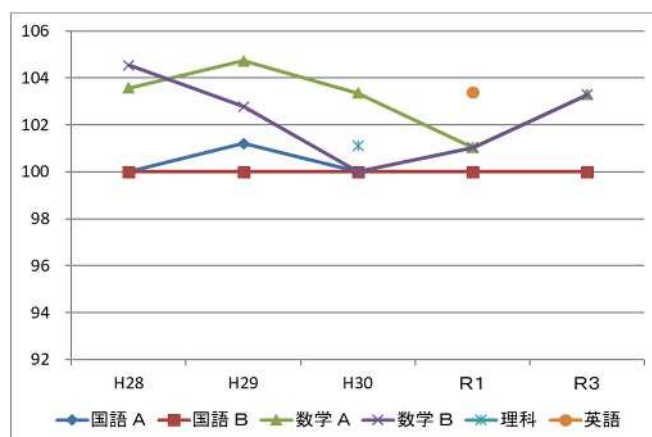
中学校		国語		数学		理科	英語
		A (知識)	B (活用)	A (知識)	B (活用)		
平成28年度	本市	75.8	66.7	64.4	45.9		
	三重県	74.4	64.3	62.2	43.2		
	全国(公立)	75.6	66.5	62.2	44.1		
平成29年度	本市	78	72	68	49		
	三重県	77	71	65	47		
	全国(公立)	77.4	72.2	64.6	48.1		
平成30年度	本市	76	61	68	47	67	
	三重県	75	60	67	46	66	
	全国(公立)	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1	
令和元年度	本市	73		61			58
	三重県	72		60			56
	全国(公立)	72.8		59.8			56.0
令和3年度	本市	65		59			
	三重県	63		58			
	全国(公立)	64.6		57.2			

○ 各教科別調査結果から（全国の平均正答数を100としたときの本市結果の経年変化）

小学校

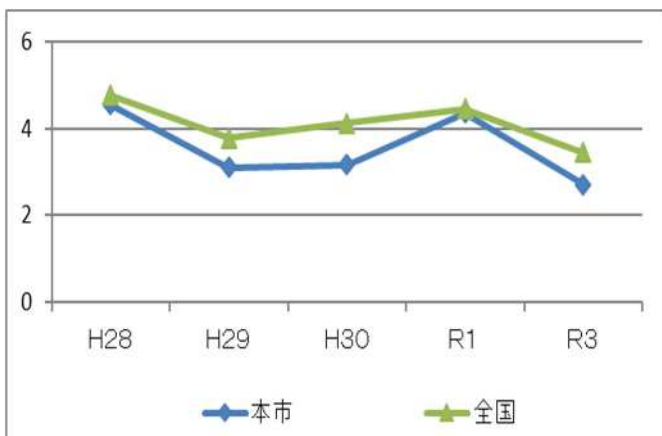


中学校

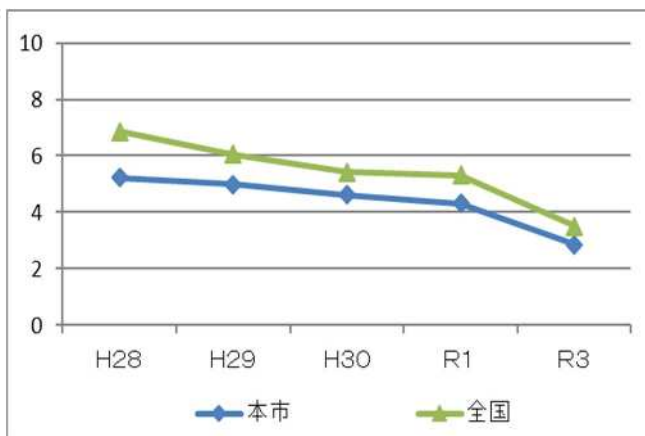


○ 無解答率の経年変化（各教科の無解答率の平均）

小学校



中学校



<小学校>

- ・ 国語は、県平均以上、全国平均と同等という結果でした。「漢字」や「主語と述語」など、基本的な力については良い結果でしたが、「自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える」力に課題が見られました。
- ・ 算数は、県平均以上、全国平均と同等という結果でした。「面積の求め方」に課題が見られました。

<中学校>

- ・ 国語は、県平均以上、全国平均と同等という結果でした。「文脈の中における語句の意味の理解」について課題が見られました。
- ・ 数学は、県平均以上、全国平均を上回る結果となりました。「問題解決の方法を数学的に説明する」力が良い結果でした。

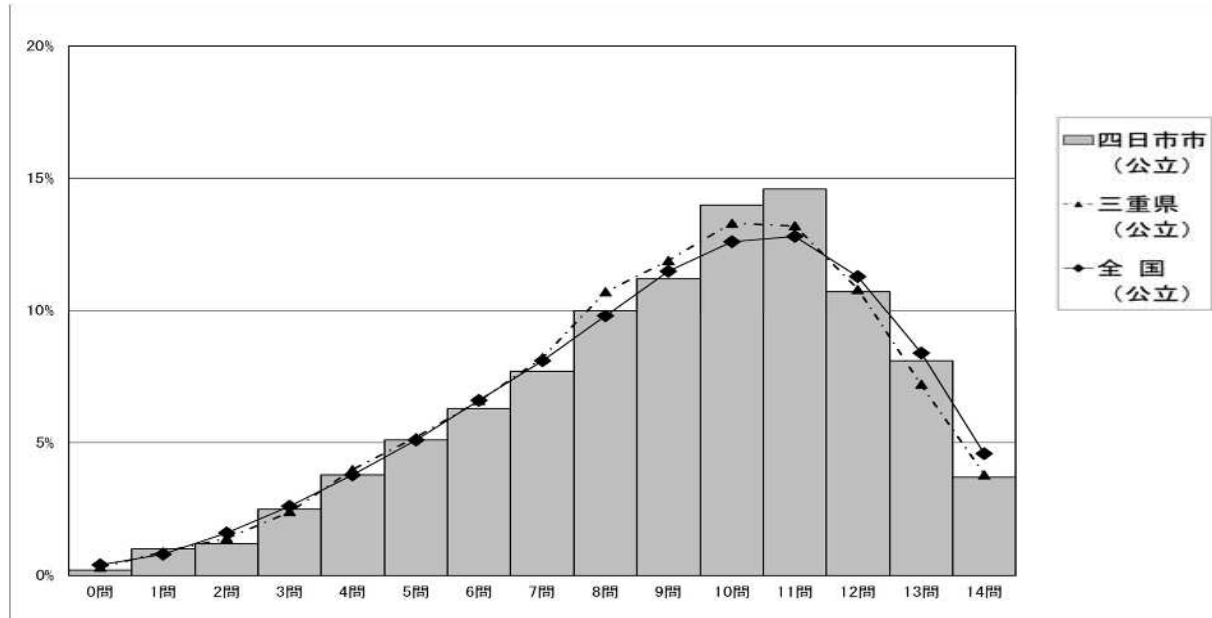
以上の結果から、本市の子どもたちは、義務教育修了時である中学校において、全国と同等あるいはそれ以上の各教科の学力を身に付けているということが分かります。加えて、無解答率の低さを踏まえると、最後まで諦めずに考えるといった学びに向かう力も育まれていることが分かります。

2 教科別 正答数分布グラフ (小学校)

国語

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
四日市市教育委員会	2,440	9.1 / 14	65	10.0	3.0
三重県 (公立)	14,437	9.0 / 14	64	9.0	3.0
全国 (公立)	993,975	9.1 / 14	64.7	9.0	3.1

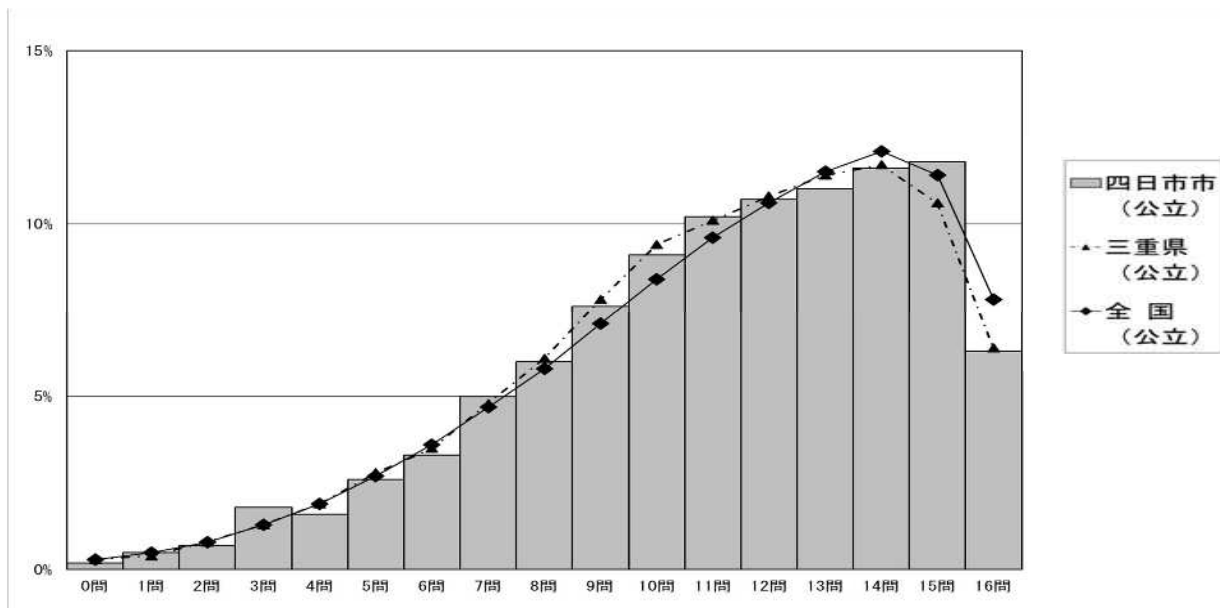
(横軸：正答数 (問) 縦軸：割合 (%))



算数

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
四日市市教育委員会	2,440	11.1 / 16	70	12.0	3.4
三重県 (公立)	14,446	11.1 / 16	69	12.0	3.4
全国 (公立)	994,101	11.2 / 16	70.2	12.0	3.5

(横軸：正答数 (問) 縦軸：割合 (%))

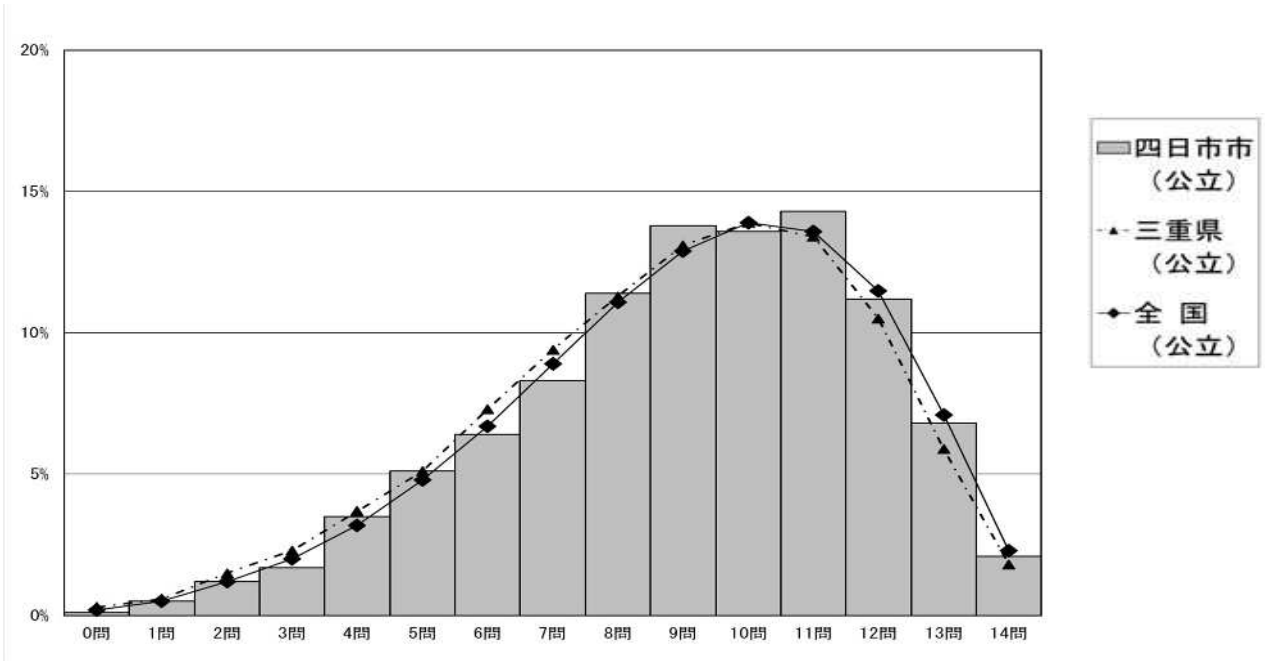


2 教科別 正答数分布グラフ (中学校)

国語

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
四日市市教育委員会	2,290	9.0 / 14	65	9.0	2.8
三重県 (公立)	13,650	8.8 / 14	63	9.0	2.8
全国 (公立)	903,157	9.0 / 14	64.6	9.0	2.8

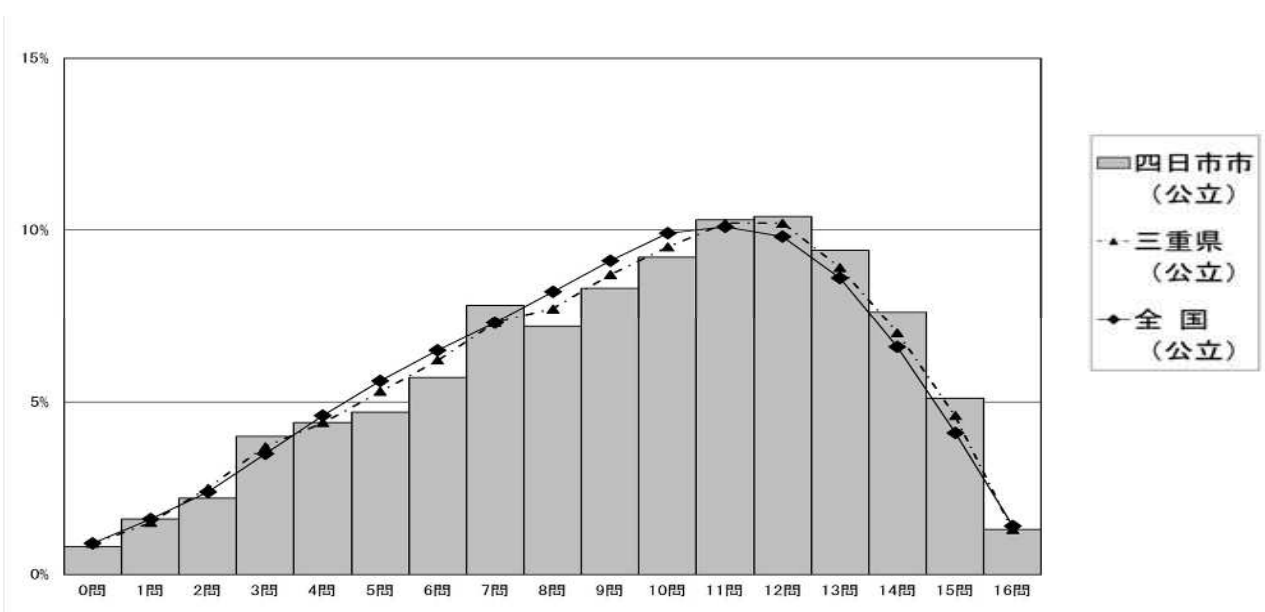
(横軸：正答数 (問) 縦軸：割合 (%))



数学

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
四日市市教育委員会	2,292	9.4 / 16	59	10.0	3.8
三重県 (公立)	13,633	9.2 / 16	58	10.0	3.7
全国 (公立)	903,253	9.1 / 16	57.2	10.0	3.7

(横軸：正答数 (問) 縦軸：割合 (%))



3 校種・教科別 調査結果概要（小学校）

【 小 学 校 国 語 】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域等	国語			問題形式	国語		
	問題数	四日市	全国		問題数	四日市	全国
話すこと・聞くこと	3	77.1	77.8	選択式	8	72.0	71.7
書くこと	2	57.1	60.7				
読むこと	3	44.7	47.2				
言葉の特徴や使い方に 関する事項	6	71.6	68.3				
全体	14	65	64.7	短答式	3	73.9	70.6
				記述式	3	37.4	40.2
				全体	14	65	64.7

(2) 本市の解答状況【小学校 国語】

- ◎ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上高い ○ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い
 ▽ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上低い ▼ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	四日市市の状況	領域等			問題形式		
				言葉の特徴や使い方に 関する事項	話すこと・ 聞くこと	書くこと 読むこと	選択式	短答式	記述式
2三	面ファスナーに関する【資料】を読み、メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く	目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける	▽						
2四	面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する	▽						
3一	丸山さんの【文章の下書き】の構成についての説明として適切なものを選択する	自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える	▼						
3三 (1) ウ	丸山さんの【文章の下書き】の中の——部ウを漢字を使って書き直す（つみ重ね）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	○						
3三 (1) エ	丸山さんの【文章の下書き】の中の——部エを漢字を使って書き直す（げんいん）		○						
3三 (2) イ	丸山さんの【文章の下書き】の中の——部イで～～部「すく」に「がくわしくしている言葉として適切なものを選択する	文の中における主語と述語との関係を捉える	◎						

※ 2ポイント以上の差がみられた問題について明記

【 小 学 校 算 数 】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域等	算数			問題形式	算数				
	問題数	四日市	全国		問題数	四日市	全国		
数と計算	4	62.7	63.1	選択式	6	76.2	76.0		
図形	3	54.0	57.9		短答式	6	73.8	75.8	
測定	3	74.2	74.8			記述式	4	53.1	53.0
変化と関係	3	75.5	75.9		全体		16	70	70.2
データの活用	5	76.7	76.0						
全体	16	70	70.2						

※ 一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

(2) 本市の解答状況【小学校 算数】

- ◎ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上高い ○ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い
 ▼ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上低い ▼ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	四日市の状況	領域等					問題形式			
				数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用	選択式	短答式	記述式	
2 (1)	直角三角形の面積を求める式と答えを書く	三角形の面積の求め方について理解している	▼									
3 (3)	「114」は二次元の表のどこに入るかを選ぶ	データを二次元の表に分類整理することができる	○									

※ 2ポイント以上の差がみられた問題について明記

3 校種・教科別 調査結果概要（中学校）

【 中 学 校 国 語 】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域等	国語			問題形式	国語			
	問題数	四日市	全国		問題数	四日市	全国	
話すこと・聞くこと	3	79.0	79.8	選択式	6	62.4	63.9	
書くこと	3	57.1	57.1		短答式	4	76.1	74.4
読むこと	4	47.7	48.5			記述式	4	56.4
伝統的な言語文化と国語の特長に関する事項	4	76.4	75.1		全体		14	65
全体	14	65	64.6					

(2) 本市の解答状況【中学校 国語】

- ◎ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上高い ○ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い
 ▼ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上低い ▼ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	四日市の状況	領域等				問題形式		
				話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特長に関する事項	選択式	短答式	記述式
2一	意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く	▼							
3一	「呼吸をのみこんだ」の意味として適切なものを選択する	文脈の中における語句の意味を理解する	▼							
3二	「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する	相手や場に応じて敬語を適切に使う	○							

※ 2ポイント以上の差がみられた問題について明記

【 中 学 校 数 学 】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域等	数学			問題形式	数学		
	問題数	四日市	全国		問題数	四日市	全国
数と式	5	65.5	64.9	選択式	2	53.0	52.4
図形	4	53.8	51.4	短答式	9	71.7	70.5
関数	3	58.4	56.4	記述式	5	37.1	35.0
資料の活用	4	54.8	53.8	全体	16	59	57.2
全体	16	59	57.2				

(2) 本市の解答状況【中学校 数学】

- ◎ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上高い ○ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い
 ▽ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上低い ▼ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	四日市市の状況	領域等				問題形式		
				数と式	図形	関数	資料の活用	選択式	短答式	記述式
2	数量の関係を一元一次方程式で表す	具体的な場面で、一元一次方程式をつくらることができる	○	■					■	
7 (2)	与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	◎			■				■
8 (1)	気温差が9℃以上12℃未満の階級の度数を書く	ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができる	○				■		■	
9 (1)	四角形ABCEが平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する	平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になること理由を説明することができる	○		■					■
9 (3)	錯角が等しくなることについて、根拠となる直線FEと直線BCの関係を、記号を用いて表す	錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している	○		■				■	

※ 2ポイント以上の差がみられた問題について明記

4 授業改善のポイントについて

小学校国語



活用できる「知識及び技能」を大切にした指導を！

3 自分の考えを主張する文章を書く

設問一：自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる。

本設問は、丸山さんが考えた【文章の下書き】の構成についての説明として最も適切なものを選択する問題です。正しい解答は、以下の通りです。

正答：自分の主張を最初と最後に書くという構成にすることで、自分の主張する内容を強調している。

<結果や課題について>

文章全体の構成や展開には、総括する内容を位置付ける箇所によって、「双括型」、「尾括型」、「頭括型」といった違いがあること、また、「双

括型」でも自分の主張することは大きく1つである（複数の異なる内容の主張があるわけではない）ことを理解していれば答えることができる問題でしたが、それぞれで躓く児童がみられました。

<指導改善のポイントについて>

本設問で問われている力は、文章を書くときだけでなく、人に話をするときや話を聞き取るときにも発揮される力であり、言語能力としては基礎的な「知識及び技能」です。

(1)「なぜ、〇〇か？」を問い、活用できる「知識及び技能」の習得に導く

指導者は、授業で「この文章の主張は〇〇である。よって双括型である。」と教え、それを覚えさせることが大切なのではありません。「なぜ、双括型だと言えるのか。」「なぜ、双括型で書いたのか。」など発問を工夫することで、「双括型」の特徴や効果等について深く理解させていきましょう。指導者としては、子どもたちが次に同様の文章に出合った時に、一人でも身に付けた「知識及び技能」を活用できるようにすることが大切です。

また、その他の「知識及び技能」においても、日常の授業や確認テスト等において、「この文章の要点や要旨は何か。」「文章の中で対比はどの部分か。」といった問いだけでなく、「なぜ、ここが要点や要旨なのか。」「なぜ、対比だと判断できたのか。」といったような問い方を意識することが大切です。このような問い方をすることで、身に付けさせたい「知識及び技能」が具体化され、子どもたちの「分かっているつもり」が浮き彫りになり、活用できる「知識及び技能」に導くことができます。

(2)国語においても繰り返しの指導を大切に

国語の漢字や語句などの指導においては、繰り返し問題に取り組みさせていると思われます。しかし、繰り返しの取り組みが大切であることは、その他の「知識及び技能」についても同様です。

例えば、授業の中で、「双括型」の文章の指導をする際には、同様の文章構成で書かれた文章を読ませる、日直のスピーチなどを「双括型」で話させてみる、「尾括型」を「双括型」の文章に書き直させるなど、繰り返し指導し、資質・能力として確実に身に付いたといえるまで学習させてください。

丸山さんの学級では、国語の学習で、気持ちよく学校生活を送ることができるよう、自分の考えを学級の友達に主張する文章を書くことにしました。次は、丸山さんが書いた「文章の下書き」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【文章の下書き】

一人一人が責任をもってかたづけよう

丸山 理子

わたしは、だれもが気持ちよく生活するために、一人一人が責任をもって使った物をかたづけることが大切だと考えます。

みなさんは、休み時間後の校庭にボールが残されたままアころがっているのを見かけたことはありませんか。わたしは、ときどき見かけることがあります。イ時には、みんなが使っていた一輪車がかたづけられずに残されています。また、遊具置き場では、一輪車や竹馬が決められた所に置かれず、すみの方にうつみ重ねられています。かたづけわすれたり時間がなくてかたづけられなかったりすることが、エけんいんなのだと思います。オ。その他にも、遊び終わったらすぐに遊具をかたづけることがむずかしい場合もあるでしょう。それでも、きちんとかたづければ、わたしたちは気持ちよく遊ぶことができると思います。

きちんとかたづけることが大切ならば、そうした人などがかたづけられればよいという考えもあるかもしれませんが、確かに、たん当が決まっていれば、その人がかたづけてくれるでしょう。しかし、わたしは、使った人がかたづけるべきだと思います。遊具だけではなく、学校の道具や図書館の本も、使った人が元の場所にきちんとかたづけておけば、次に使う人は気持ちよく利用することができますと思います。学校の中がきれいになると、わたしたちは気持ちよく生活できます。そのためにも、わたしは、一人一人が責任をもってかたづけることが大切だと考えます。

国語3-1の正答率

本市平均	57.7%
(全国平均)	64.8%

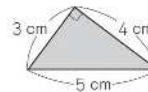


習得した「知識及び技能」を、生きて働くものに！

2 図形の構成の仕方に着目した図形の計量

図形の計量について、図形を構成する要素などに着目し、面積を求めることができるかどうかをみる。

2 図1のような直角三角形があります。



(1) 直角三角形の面積は何cmですか。求める式と答えを書きましょう。

本設問(1)は三角形の面積の求め方について理解しているかを見る問題でした。

正答： $3 \times 4 \div 2$ ($4 \times 3 \div 2$)

算数2(1)の正答率
本市平均 44.1%
(全国平均 55.1%)

<結果や課題について>

全国平均よりも11%低いという結果でした。解答類型から以下の2つの課題が分かります。

面積そのものの概念の理解ができていない

$3 \times 4 \times 5 \div 2$ 、 $3 \times 4 \times 5$ と解答した割合 29.0%

「面積」が図形の広さを表すものであること、「一辺の長さが1cmの正方形の広さを1cm²とする」ことが十分に理解できていないことが分かります。

面積の公式の意味が理解できていない

① 3×4 、 4×3 と解答した割合 10.9%

② $5 \times 3 \div 2$ 、 $5 \times 4 \div 2$ 、 5×3 、 5×4 と解答した割合 6.6%

三角形の面積の公式は、「底辺×高さ÷2」ですが、①は、公式を正しく使えていない、あるいは分かっていたけど÷2を忘れた、ということが分かります。②は、底辺・高さの捉えができておらず、公式を使って面積を求めることができないことが分かります。

<指導改善のポイントについて>

図形の面積を求めるために、公式を使いますが、公式を覚えるだけで活用できるとは言いきれません。活用できるようにするためには、公式の意味や価値(よさ)を理解させることが大切です。

① 具体物を用いた数学的な活動を効果的に取り入れる

公式を使わず図形の面積を求めるには、正方形や長方形の面積に帰着して考えなければなりません。子どもたちは、求めたい図形に補助線を引いたり、等積変形したりしながら、面積の求め方を考えていきます。このように体験的に学ぶことで、概念や性質の理解に裏付けられた確かな知識及び技能の習得につながります。

② 対話的な学びの場を十分確保する

考えを共有する際、教師と子どもの一対一のやり取りではなく、「なぜそのような考え方で求められるのか」、子どもたちが分からなさを出し合いながら、学び場を設定します。教師が教えるのではなく、子どもたちが言葉や図、式を使って実際に操作しながら説明したり、複数の子どもが説明したりすることで理解につながります。

このような授業を行うことで、公式の意味や価値(よさ)が理解ができ、形や向きが変わった図形がでてきても、必要な情報を自ら選び出し、解を導き出すことができます。公式を忘れてしまっても、体験的に学んだことは心に残りやすく、求める過程を思い出し、問題を解くことができると期待されます。



2 意見文を書く

設問一：書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くことができるかどうかをみる。

本設問は、山田さんが書いた【意見文の下書き】を推敲する場面が設定されています。山田さんが、㊸及び㊹の部分のように文章を直した意図について、最も適切なものを選択する問題です。

正しい解答は、以下のとおりです。

㊸…直前の文で述べている意見の根拠であることをより明確にしようとした。

㊹…**1**段落で述べている意見の根拠となる具体例をより詳しく説明しようとした。

<結果や課題について>

文章を推敲する際には、読みやすく分かりやすい文章にするために、書き手としてではなく、読み手の立場に立って文章を整えることが大切です。本設問の結果から、課題として以下の2点が考えられます。

- ・㊸の部分の文が、直前の文で述べている意見の根拠であることを理解し、より明確にするための文末表現について捉えられていません。

- ・**2**段落が**1**段落で述べている意見の根拠となる具体例を述べたものであることを理解し、具体例をより詳しく説明するために、言葉を加えているものであることを捉えられていません。

<指導改善のポイントについて>

(1) 「筆者はなぜこのような書き方をしたのか」という指導へ

授業においては、内容理解だけでなく、文章構成や展開、表現の仕方等に留意し、どのような工夫と効果があるのかを指導することが大切です。例えば、日常の授業や確認テスト等において、「文章の中で抽象と具体はどの部分か。」「この文章の要旨や要約は何か。」といった問いだけでなく、「なぜ、ここが抽象だといえるのか。」「なぜ、ここが要旨や要約になるのか。」といったように問い方を工夫するなどです。

本設問においても、「Bには、どのような文を入れればよいか」といった問いではなく、「Bの文があることで、どのような効果があるのか」とう問い方となっています。このような問い方をすることが、他の教材でも活用できる「生きて働く力」につながります。

(2) 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を関連させた授業づくりを

本設問のように、文や段落の関係を捉える力を身に付けさせるためには、「書くこと」の領域で指導するだけでは十分ではありません。「書くこと」の学習で学んだことを、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域においても意識させることが大切です。例えば、「話すこと・聞くこと」の単元で実際にスピーチをする際にも、発表者が示す具体例が考えを支えるものになっているかを吟味させるなど、「書くこと」の領域以外でも繰り返し学習していくことが大切です。

【文章の下書き】

① SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)などを活用し、インターネット上で文字を送ったりやりとりする機会が増えています。私は、SNSでやりとりをする際は、相手にどう伝わるかをよく考えながら言葉を選んで使うべきだと思う。SNSは少ない文字数で自分の思いや考えを表現することが多く、相手に伝えたいことが正しく伝わらないことがある。

② 以前、私は次のような経験をした。SNSを使い、みんなで持ち合わせた相談をしていたときのことである。一人の友達に対して、持ち合わせた場所までの交通手段を尋ねるつもりで「例であるの」と書いたところ、「どうして行つてはダメなの」という返信が来て、「はっとさせられたことがあった。友達は、私の言葉を「なぜ来るのか」という意味で捉えてしまったのだ。そのとき私が、友達に誤解を与えないよう「いいねい」に書いていれば、このようなことは起こらなかっただろう。

③ 皆さんの中には、友達同士であれば悪い言葉でも十分に意思疎通が図れると考える人、悪い言葉でやりとりができる手紙こそがSNSのよさだと考えたりする人もいるだろう。しかし、伝えたいことが正しく伝わらなければ、私が経験したように相手に誤解を与え、不快な思いをさせてしまうこともあるのだ。

④ SNSで自分の思いや考えを表現する場合には、内容を相手に正しく伝えるために、言葉を十分に吟味して使うことが大切だ。少なくともあの経験以来、私は、SNSを使ってやりとりをする際には、自分が書いた言葉を必ず読み返してから発信するようにしている。

国語2一の正答率

本市平均	22.6%
全国平均	24.8%

中学校数学



資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的に説明する力の育成

⑧ (2) 相対度数の必要性と意味を理解していること

⑧ (2)の正答率
本市平均 37.0%
(全国平均 36.8%)

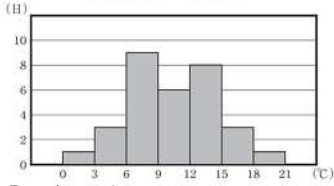
(3) ある事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明すること

⑧ (3)の正答率
本市平均 11.3%
(全国平均 11.1%)

① Problem(問題を設定する)

「気温差が大きい日や小さい日があることが気になり・・・」

気温差のヒストグラム



② Plan(計画を立てる)

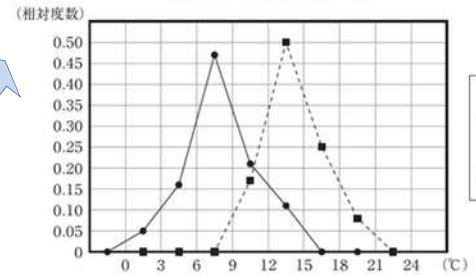
「日照時間が長い日は、気温差が大きい傾向にあるのではないかな・・・」

③ Date(データをまとめて整理する)

気温差(°C)	6時間未満		6時間以上	
	度数(日)	相対度数	度数(日)	相対度数
以上 未満				
0 ~ 3	1	0.05	0	0.00
3 ~ 6	3	0.16	0	0.00
6 ~ 9	9	0.47	0	0.00
9 ~ 12	4	0.21	2	0.17
12 ~ 15	2	0.11	6	0.50
15 ~ 18	0	0.00	3	0.25
18 ~ 21	0	0.00	1	0.08
合計	19	1.00	12	1.00

④ Analysis(分析する)

気温差の度数分布多角形



⑤ Conclusion(結論を出す)

「日照時間が6時間以上の日は6時間未満の日より気温差が大きい傾向」

<出題の趣旨>

- 日常生活や社会の事象を考察する場面では、表やグラフなどからデータの傾向を適切に読み取り、それらを基に判断の理由を説明することが求められる場合があります。その際、グラフや代表値を用いてデータの傾向を捉え説明することが大切です。調べたことを度数分布表やヒストグラムなどに整理して分析し、それらからデータの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるかどうかを解答として求めました。

<指導改善のポイントについて>

- 第1学年の『D 資料の活用』の内容である。目的に応じて資料を収集し、表やグラフに整理し、代表値や資料のちらばりに着目してその資料の傾向を判断できるようにすることがねらいです。そのねらいを達成するために、次の2点の学習場面を授業の中に設定をすることが重要です。
 - 資料の分布の様子を的確に捉え、説明する学習の場面
 - 授業の中に統計的な問題解決な方法を学習する場面

【ポイント①目的に応じた思考ツール(度数分布多角形など)の活用】

資料を整理して情報を読み取り、それを基に資料の傾向を判断できるようにするために、収集した資料を目的に応じた度数分布表やヒストグラムで表して分布の様子を捉えることができるようにします。そのため、総度数の異なる2つの集団を扱う際には、相対度数を用いると各階級ごとの比較が可能になることや、相対度数を使った度数分布多角形を用いると2つの資料の分布の特徴を捉えやすくなることを確認するなど、それぞれの表やヒストグラムの特徴を押さえておきます。

【ポイント②「PPDAC」から、さらに新たな「P」への気づき】

日常生活や社会の事象を統計的に考察するためには、データを収集・整理し、傾向を捉えて説明する一連の活動の後、問題解決の過程を振り返り、処理の仕方を見直す場面を設定することが大切です。その上で、必要に応じて新たなデータを収集したり、視点を変えて整理したりして分析するという活動を取り入れていきます。

5 児童生徒質問紙の結果について

【グラフの見方】

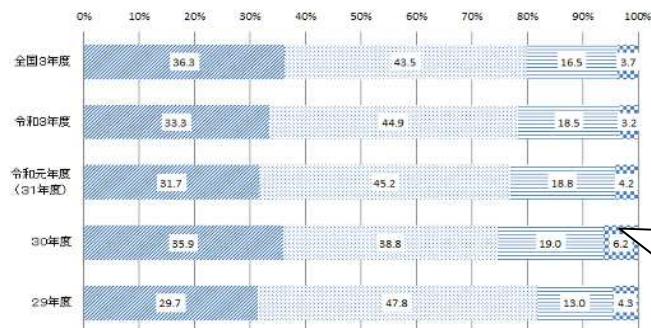
(例) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

質問紙の質問番号

小学校 1

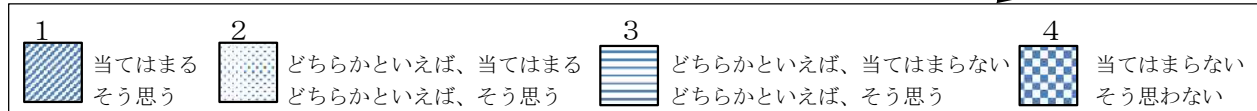
令和3年度
全国の回答状況

本市の年度別の
回答状況



左から
1・2・3・4
の回答を表す。

- ※ 数値の合計は100にならない場合がある。
- ※ 回答方法の記載がないグラフの表示は以下のとおりである。
- ※ 肯定回答は1を選択、肯定的回答は1・2を選択した場合を表す。



(1) 教科の意識に関する質問

◇肯定的回答（上記1と2の合計）が、全国の結果を上回っている質問

<小中とも>

- ・ 国語の勉強は大切だと思いますか。
- ・ 国語の授業の内容はよく分かりますか。
- ・ 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。
- ・ 算数・数学の勉強は好きですか。
- ・ 算数・数学の勉強は大切だと思いますか。
- ・ 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。
- ・ 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。
- ・ 英語の勉強は好きですか。

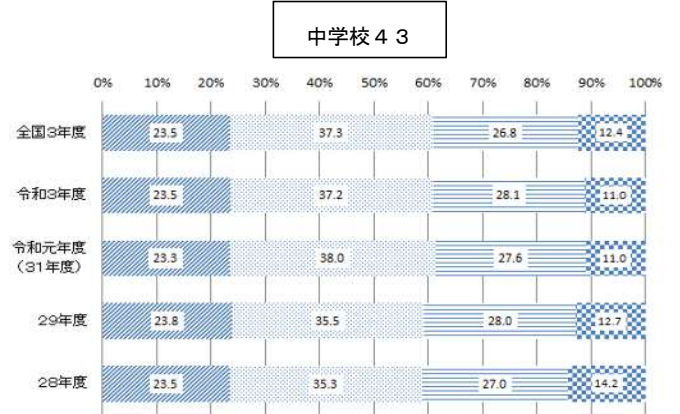
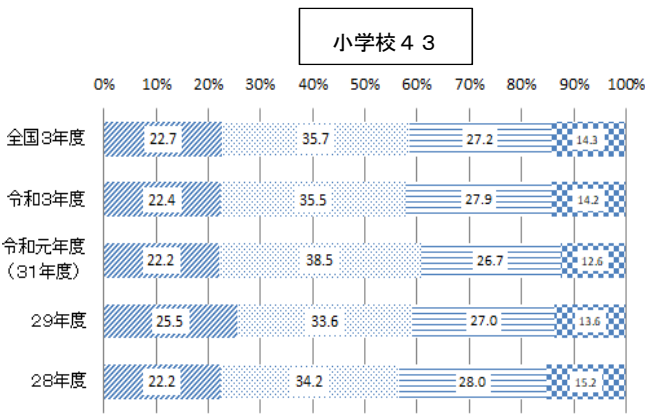


◆肯定的回答（上記1と2の合計）が、全国の結果を下回っている質問

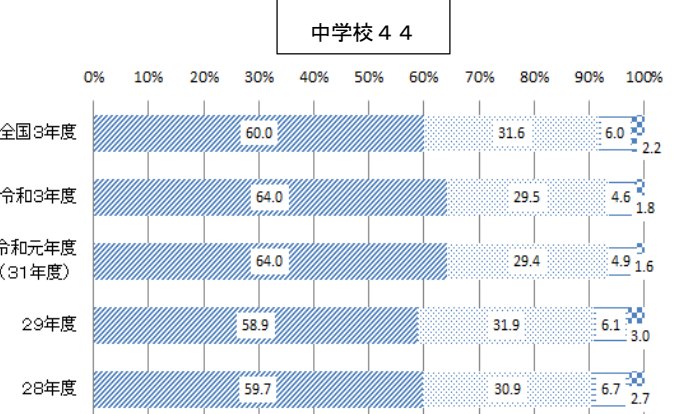
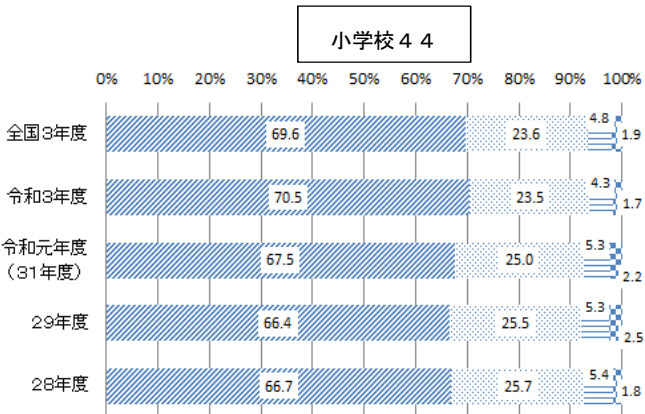
<小中とも>

- ・ 国語の勉強は好きですか。

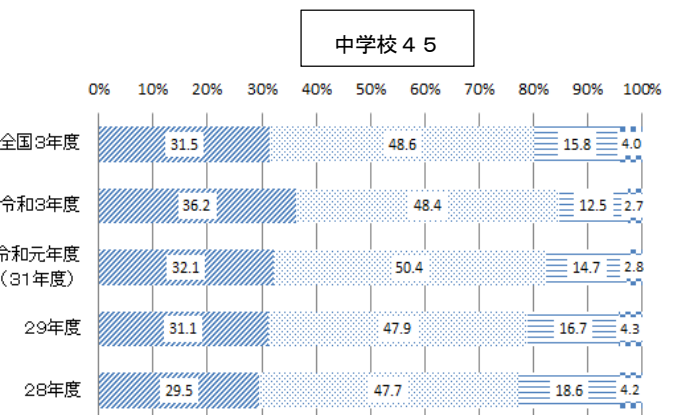
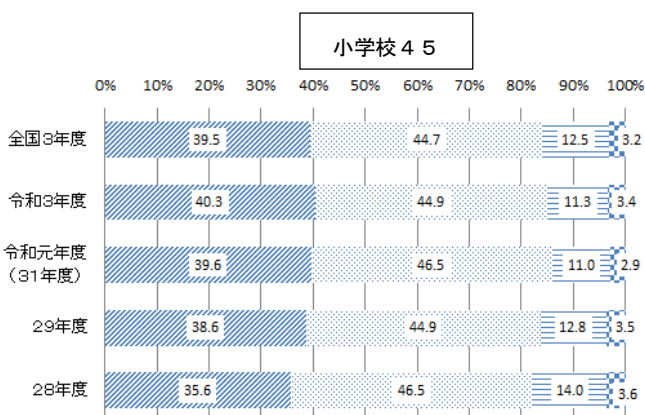
○ 国語の勉強は好きですか。



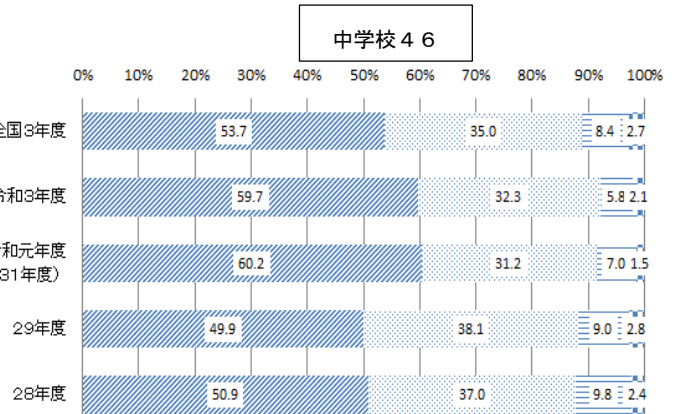
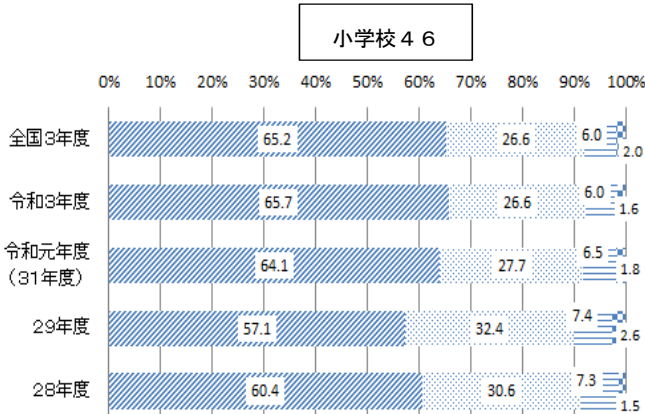
○ 国語の勉強は大切だと思いますか。



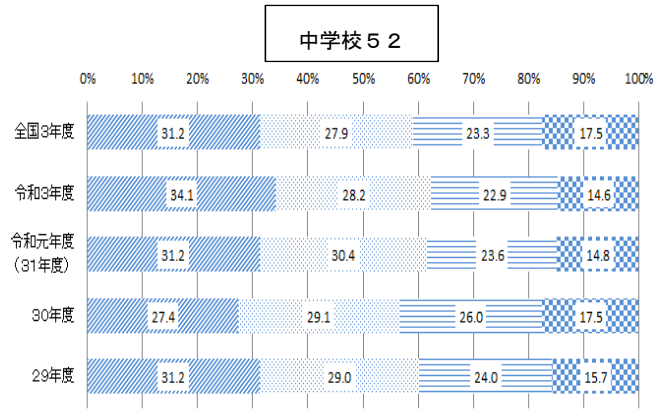
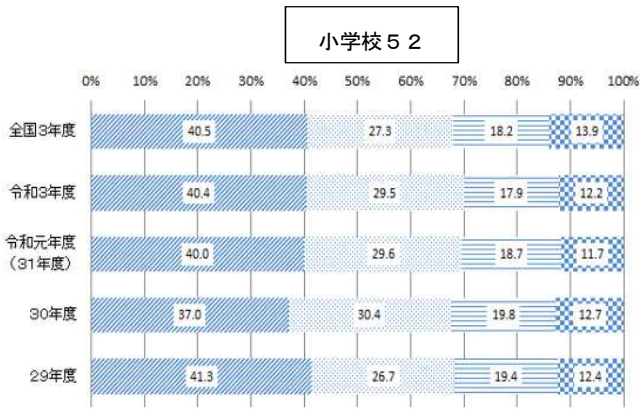
○ 国語の授業の内容はよくわかりますか。



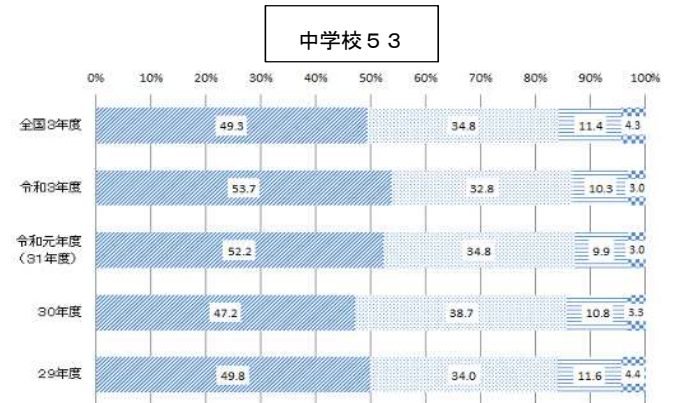
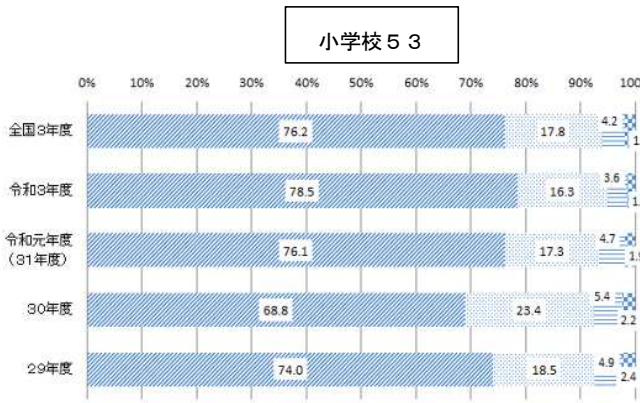
○ 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



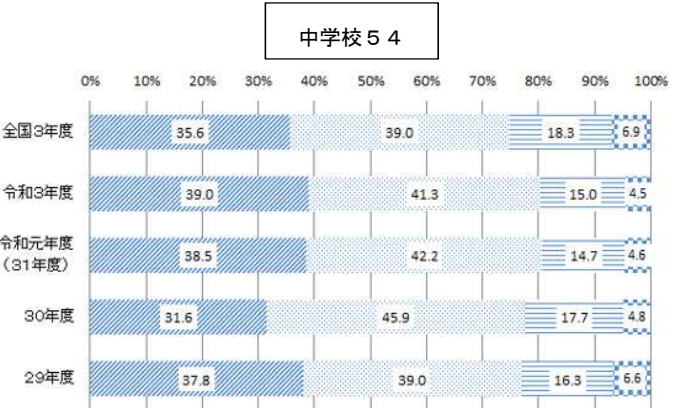
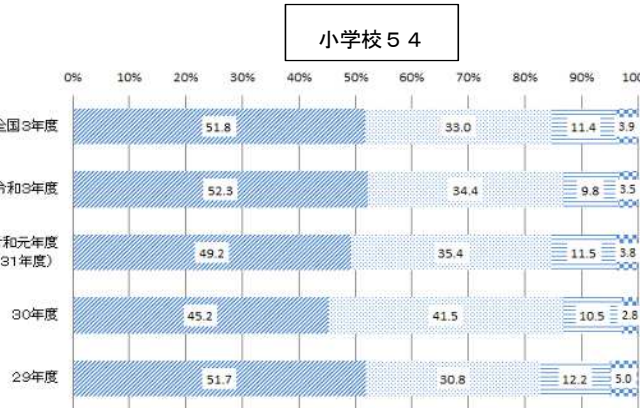
○ 算数・数学の勉強は好きですか。



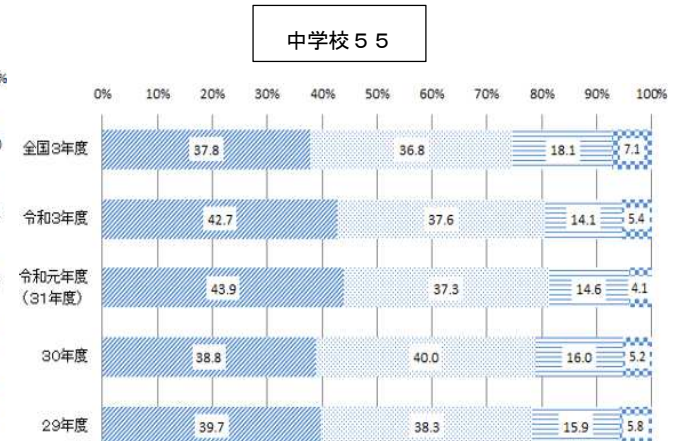
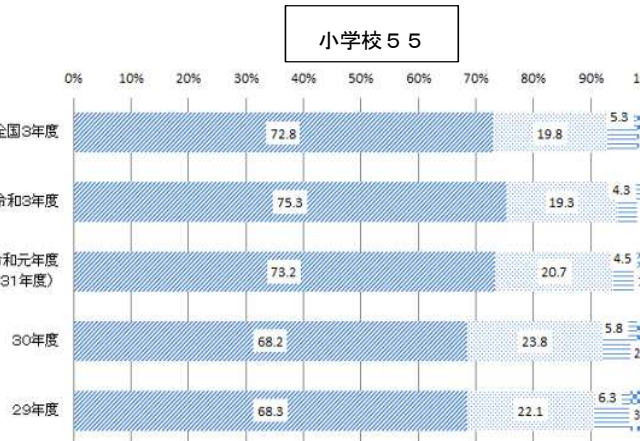
○ 算数・数学の勉強は大切だと思いますか。



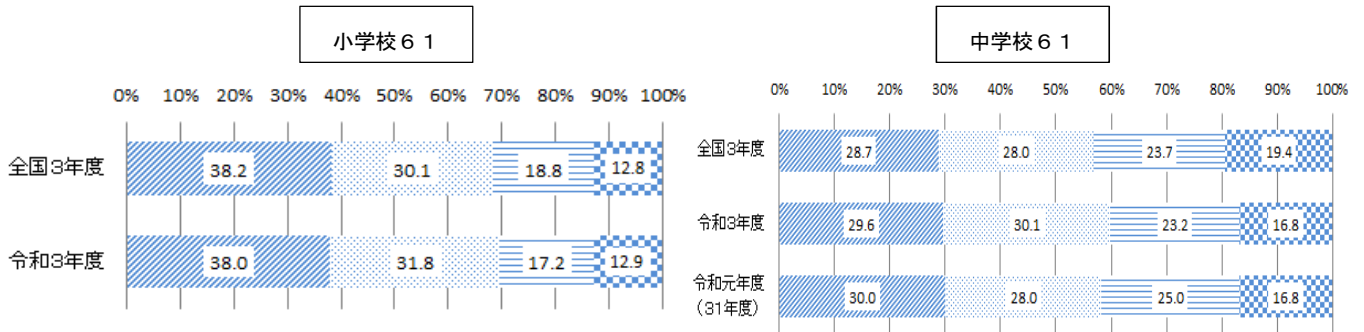
○ 算数・数学の授業の内容はよくわかりますか。



○ 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



○ 英語の勉強は好きですか。



<考察>

- 本項「教科の意識に関する質問」については、ほとんどの質問において、本市の肯定的回答の割合が全国平均を上回っていました。

「国語（算数・数学）の勉強は大切だと思いますか」、「国語（算数・数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問は、ともに全国平均を上回っていました。学習指導要領では、児童生徒が知識や技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を養ったり、新たな学びに向かったりするだけでなく、学びを人生や社会に生かそうとしたりする力を高めていくことが大切だと示されています。そのためにも、各教科の勉強の大切さを実感し、日常生活や社会に生かそうとする態度を育成していくことが大切だと考えます。

- 「国語（算数・数学）の授業の内容はよく分かりますか」については、小学校で全国平均を1.0%、中学校で全国平均を4.5ポイント上回っていました。本市の児童生徒は、毎日の授業において「わかる・できる」といった思いを積み重ねて学んでいることが分かります。しかし、肯定的回答ではない児童生徒がいることを踏まえると、今後もすべての児童生徒の授業に対する充実感を高めていく必要があると考えています。
- 「英語の勉強は好きですか」という質問については、小中学校ともに全国平均を上回っていました。本市の英語教育充実に向けた取り組みが結果につながっていると考えられます。
- 「算数・数学の勉強は好きですか」という質問は全国平均を上回っていましたが、「国語の勉強は好きですか」という質問については、全国平均を下回っていました。今後は、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、教科の本質的なおもしろさに迫る授業改善を推進するとともに、コロナ禍においてもICT機器等を効果的に活用することで、子どもたちの「分かる・できる」思いを積み重ねていきます。

(2) 「学習の基盤となる力」に関する質問

◇肯定的回答（上記1と2の合計）が、全国の結果を上回っている質問

<小中とも>

- ・ 5年生までに受けた授業で（1、2年生のときに受けた授業で）、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。
- ・ 自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか。
- ・ 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思えますか。
- ・ 5年生までに受けた授業（1、2年生のときに受けた授業）で、学級の友達と話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか。
- ・ あなたの学校で、コンピュータなどの ICT 機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか。
- ・ 5年生までに受けた授業（1・2年生のときに受けた授業）では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思えますか。
- ・ 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。

<中のみ>

- ・ 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。
- ・ あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。

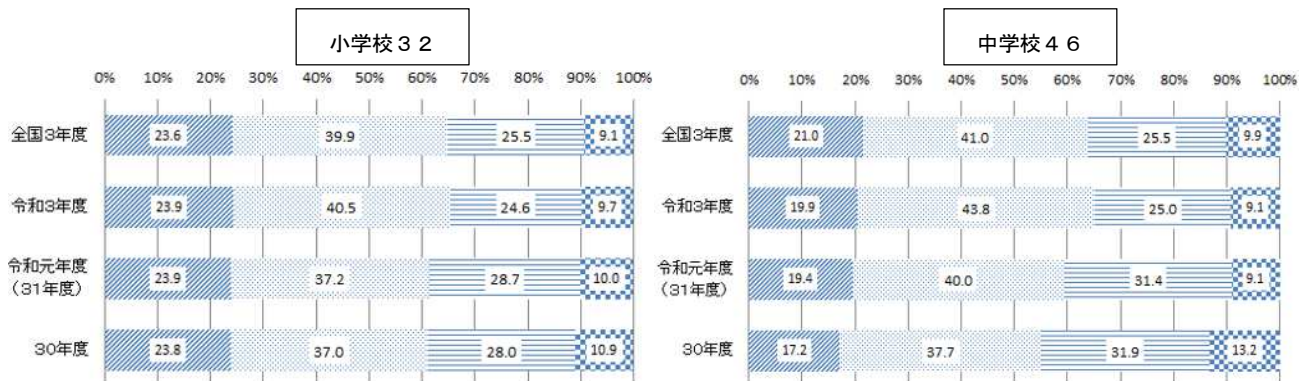
◆肯定的回答（上記1と2の合計）が、全国の結果を下回っている質問

<小中とも>

- ・ 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。

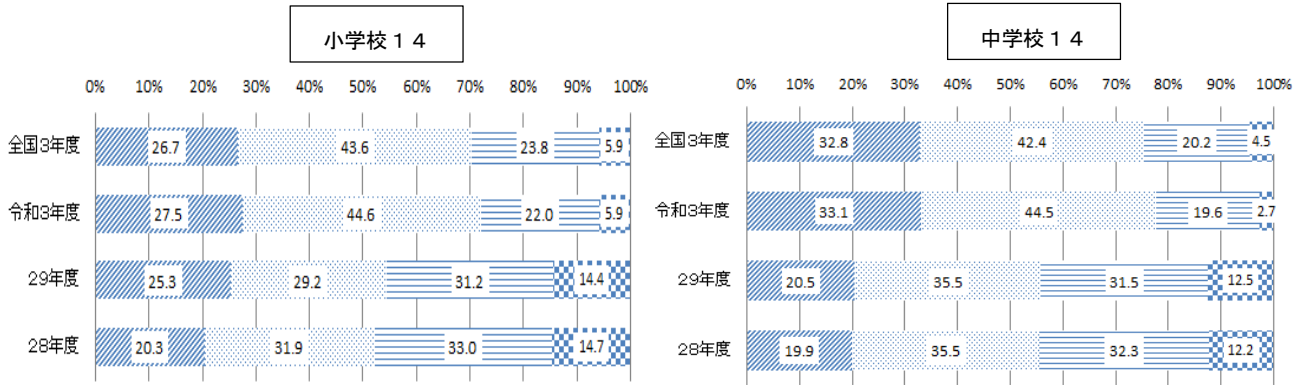
<「言語能力」に関わって>

- 5年生までに受けた授業で（1、2年生のときに受けた授業で）、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

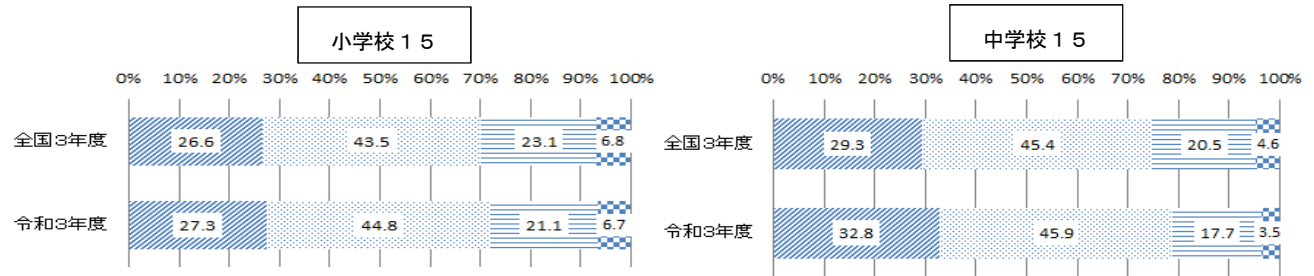


○ 自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか。

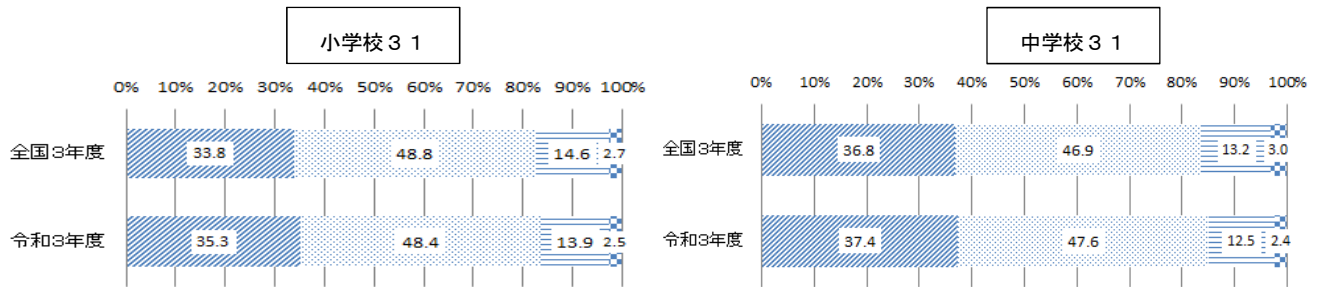
(※H29年度までは、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」)



○ 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。

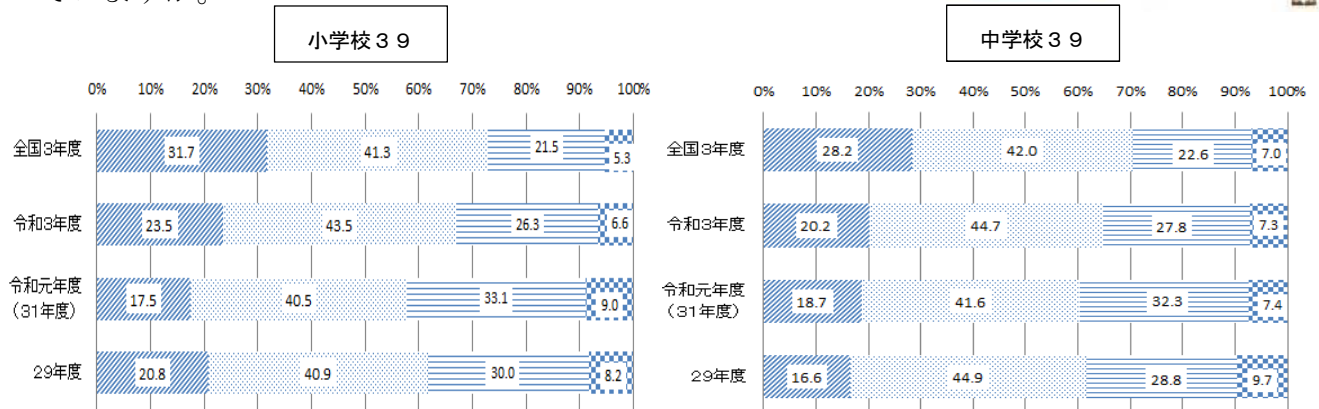


○ 5年生までに受けた授業（1、2年生のときに受けた授業）で、学級の友達と話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか。

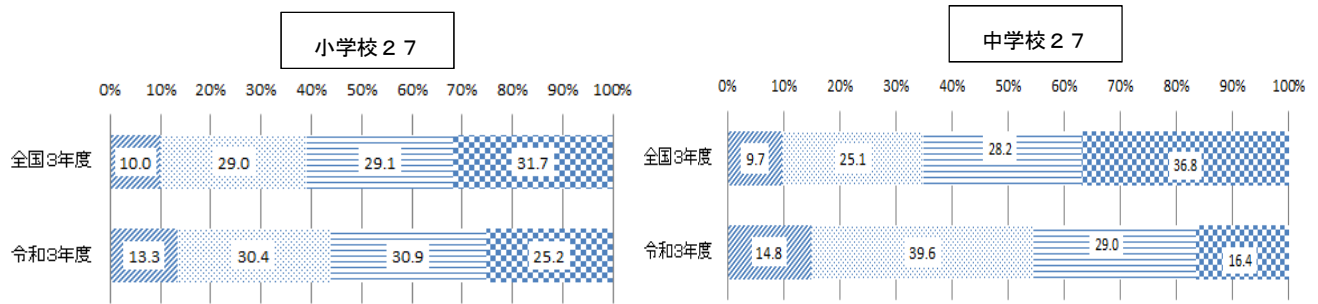


<「情報活用能力」に関わって>

○ 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。

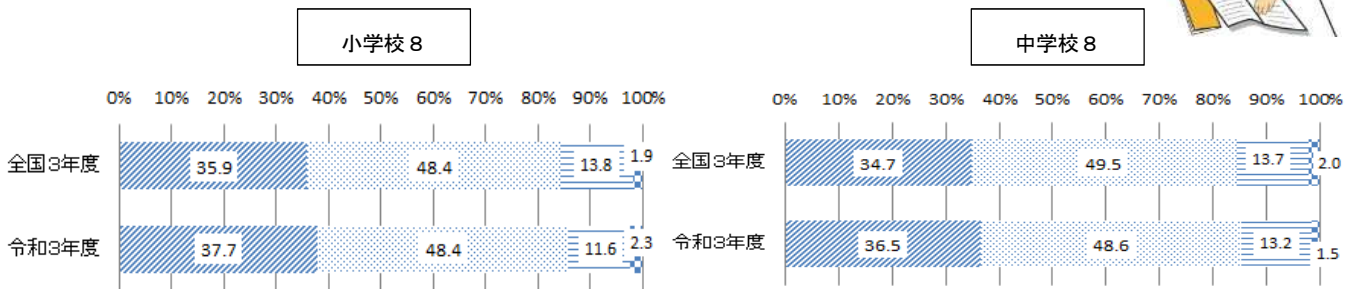


○ あなたの学校で、コンピュータなどの ICT 機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか。

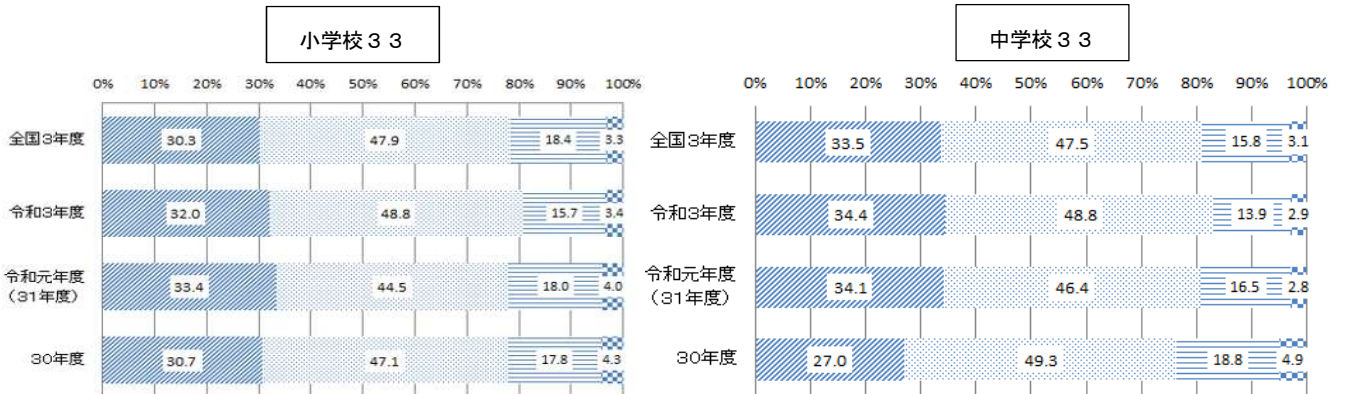


<「問題発見・解決能力」に関わって>

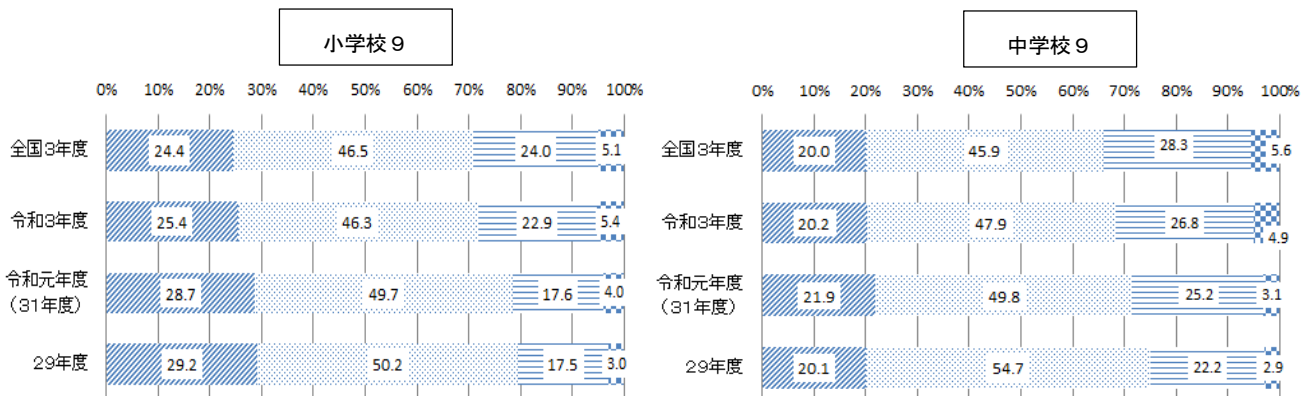
○ 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。



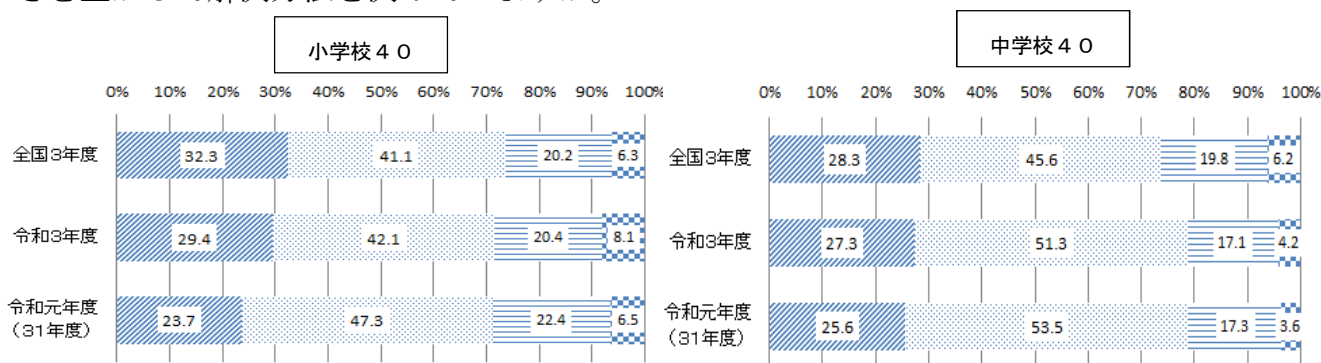
○ 5年生までに受けた授業(1・2年生のときに受けた授業)では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



○ 難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか。



- あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。



<考察>

- 「学力」と言われると、「漢字が読める・書ける」や「面積を求めることができる」など各教科の「知識及び技能」をイメージすることが多いと思います。しかし、子どもたちが変化の激しい社会を豊かに生きていくためには、各教科等において示されている資質・能力だけでなく、教科の枠を超えた力の育成が必要だと言われています。

本項で挙げている「言語能力」、「情報活用能力」、「問題発見・解決能力」は、「学習の基盤となる力」として、すべての教科等において教科横断的に育成していく資質・能力になります。

- 「言語能力」については、小中学校ともにすべての質問において全国平均を上回っていました。経年で見ても、改善傾向であることが分かります。今後も、新教育プログラム柱1で取り組んでいる「読解力向上の『20の観点』」等を活用するとともに、発達段階に応じた言語活動を充実させて、児童生徒の資質・能力を育んでいきます。
- 「情報活用能力」に関わる質問（ICT関係の質問）について、本冊子に掲載していない質問も含めて、全国平均と比較して大きく上回っています。しかし、情報を活用する力は、パソコンやタブレットを活用するだけでなく、「総合的な学習の時間」など、様々な教科の学習で育んでいく必要があります。今後も教科の特質に応じて情報を活用する場面を設定し、教科の内容とともに涵養していきます。
- 「問題発見・解決能力」については、これまで「四日市モデル」（問題解決能力向上のための5つのプロセス）等を意識して、各教科等の授業の中で大切に育てていきました。現在は、新型コロナウイルス感染症対策の中で、問題解決的な授業設定が難しい内容もありますが、継続して授業改善を進めていきます。

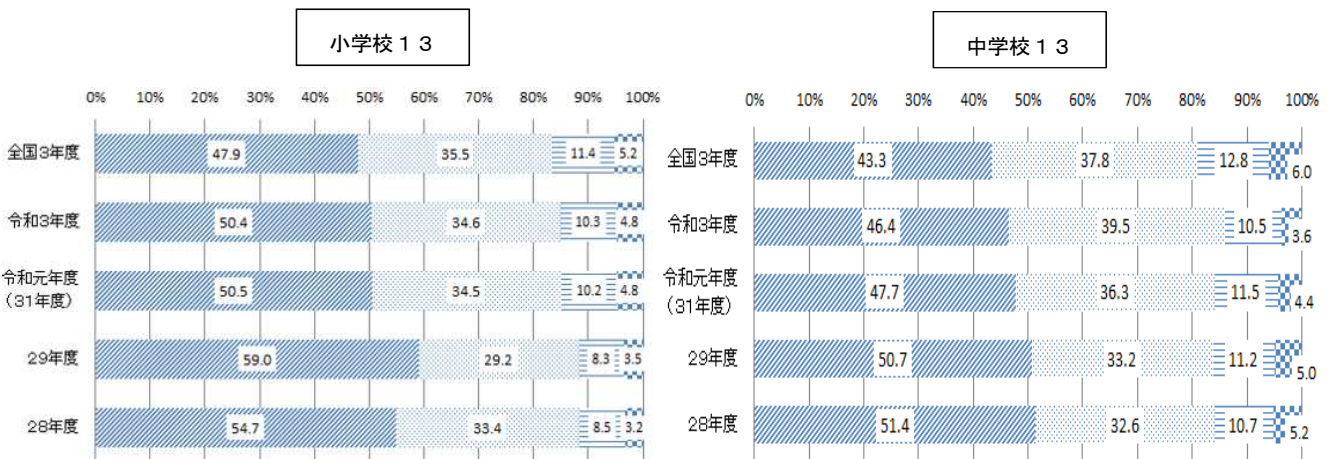
(3) 学校生活等の意識に関する質問

◇肯定的回答が、全国の結果を上回っている質問

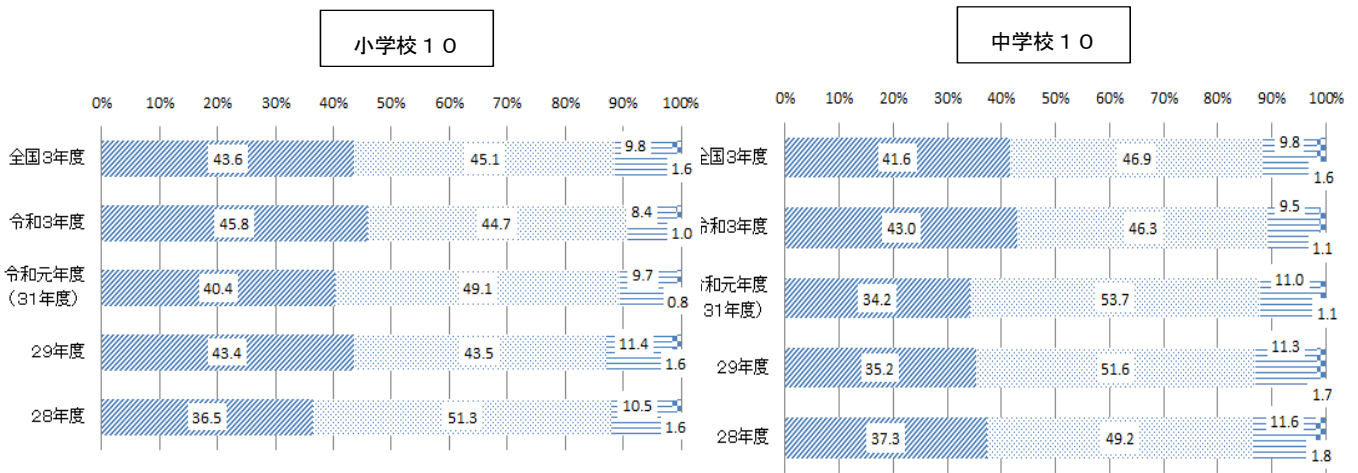
<小中とも>

- ・ 学校に行くのは楽しいと思いますか。
- ・ 人が困っているときは、進んで助けていますか。
- ・ 友達と協力するのは楽しいと思いますか。
- ・ 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

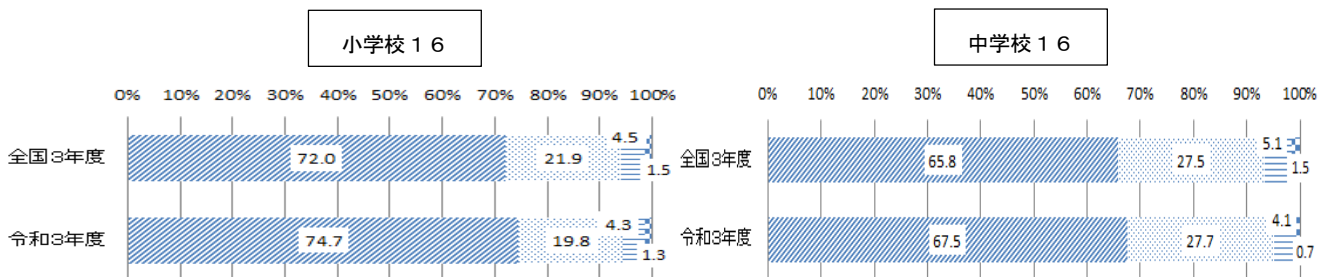
○ 学校に行くのは楽しいと思いますか。



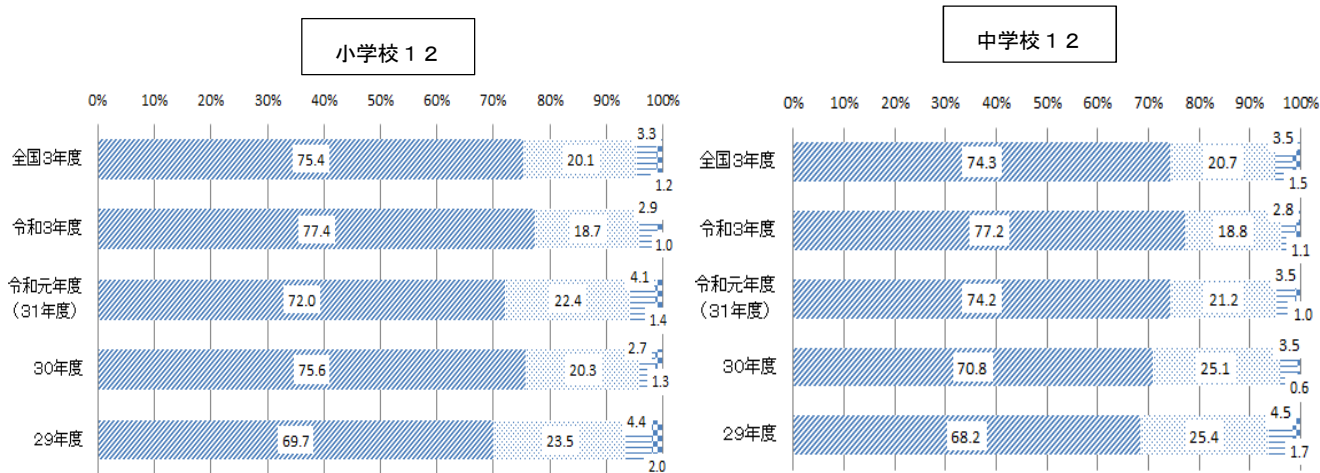
○ 人が困っているときは、進んで助けていますか。



○ 友達と協力するのは楽しいと思いますか。



○ 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



< 考察 >

- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問については、小中学校ともに肯定的回答の割合が全国平均を上回っていました。

本質問は、その他の質問を総括する重要な質問であると考えています。小学校において、全国平均を上回っていますが、前回調査と比較して割合が減少しています。新型コロナウイルス感染症による教育活動の制限等が影響している可能性は否定できません。

今後も、肯定的回答を100%に近づけていくために、日々の授業を充実させたり、仲間づくりの取り組みを積み重ねたりしていく必要があると考えています。

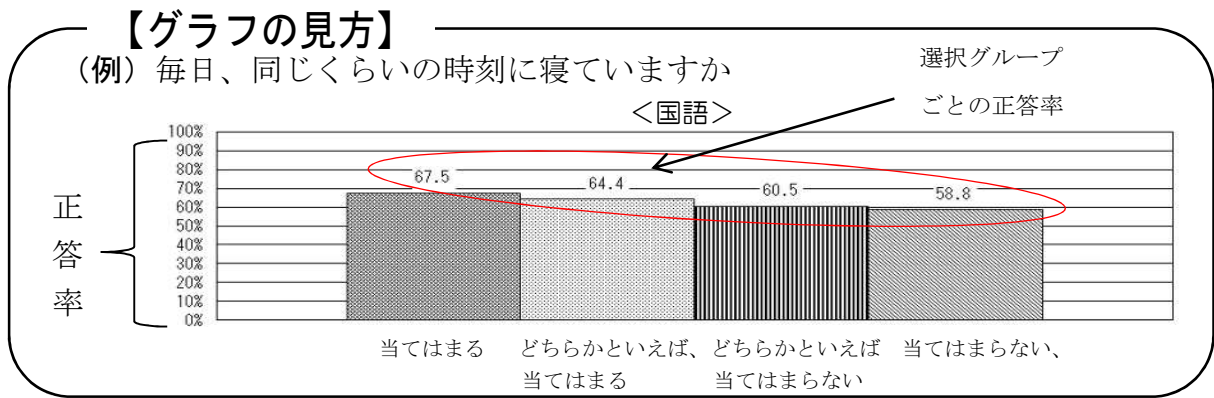
- 「人が困っているときは、進んで助けていますか」、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問は、ともに全国平均を上回っていました。本市の子どもたちは、学校において様々な友達や先生と関わり合う中で、このような意識を育てていることが考えられます。

今後も、各学校において、教育活動全体を通して児童生徒の自己肯定感等を高めることで、自分だけでなく周りを気遣える子どもを育てていきます。

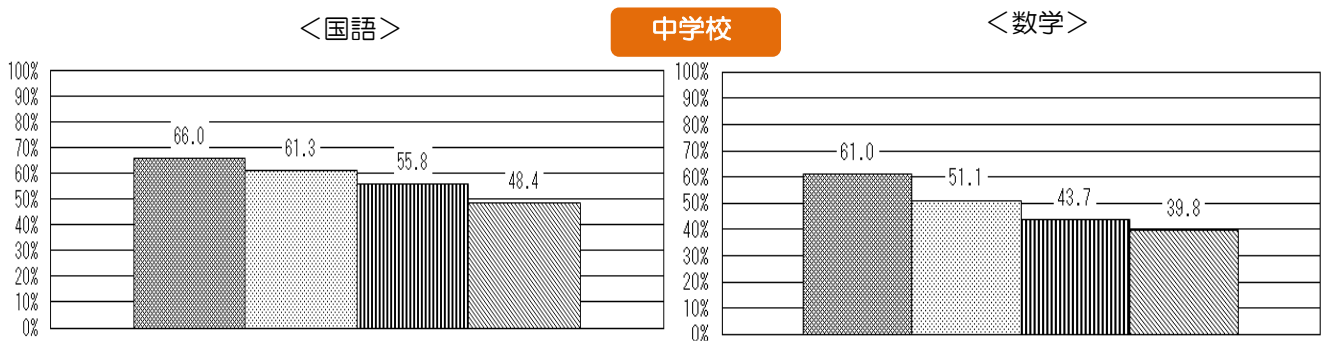
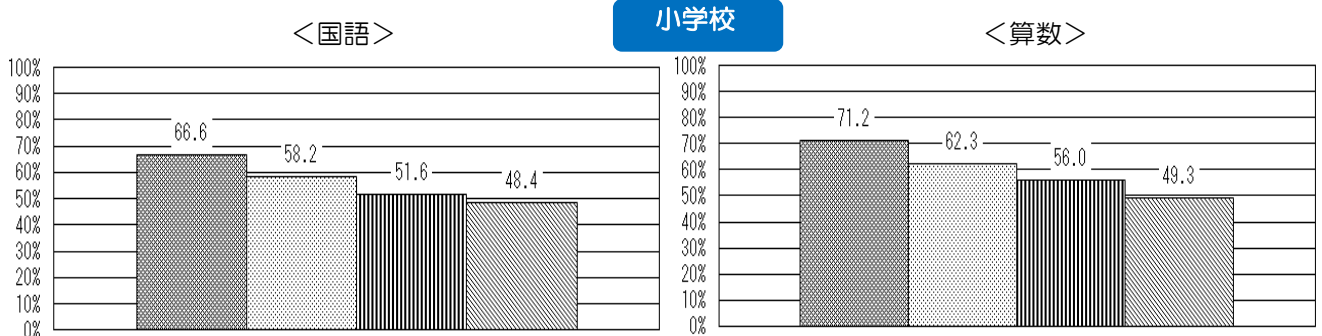
- 「友達と協力するのは楽しいと思いますか」の質問についても、全国平均を上回っていました。子どもたちが今まで経験してきた教育活動の中で、友達と協力し何かをやり遂げたり、ともに課題を解決したりしてきた経験が結果につながっているものと考えています。

現在は、コロナ禍ということで、友達と関わり合う活動については、一定の制限がかかっていますが、これからも友達と協力する活動については、学校教育の中で大切にしていきたいと考えています。

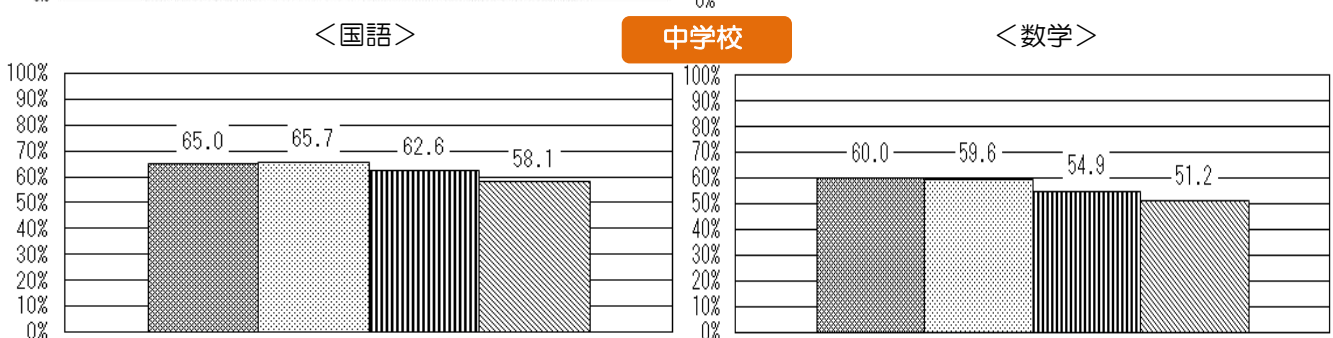
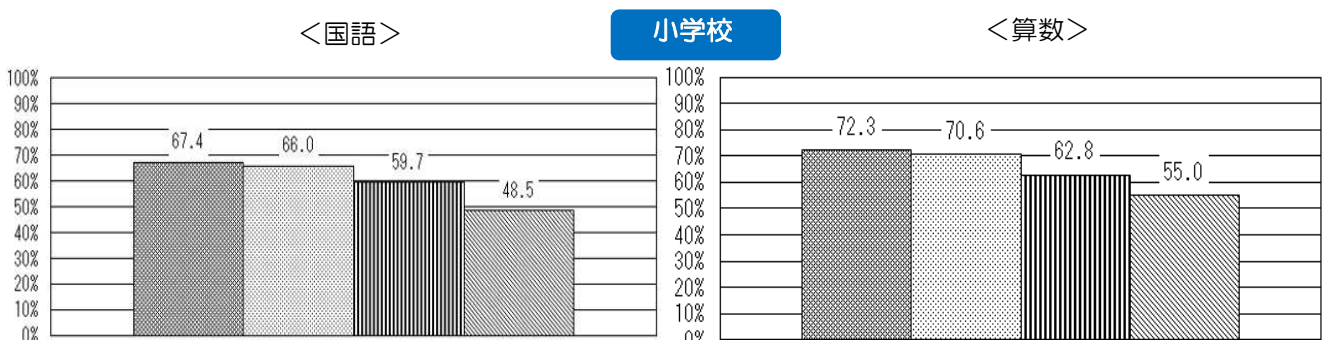
(4) 生活習慣と学力の関連



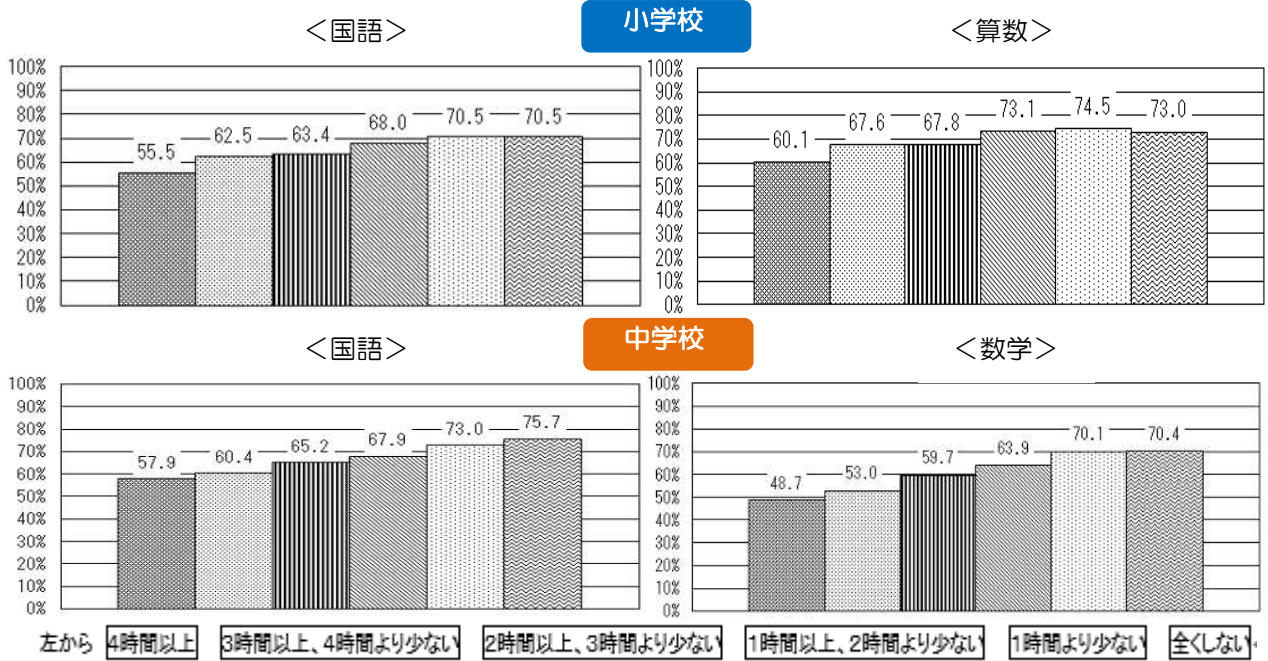
○ 朝食を毎日食べていますか。



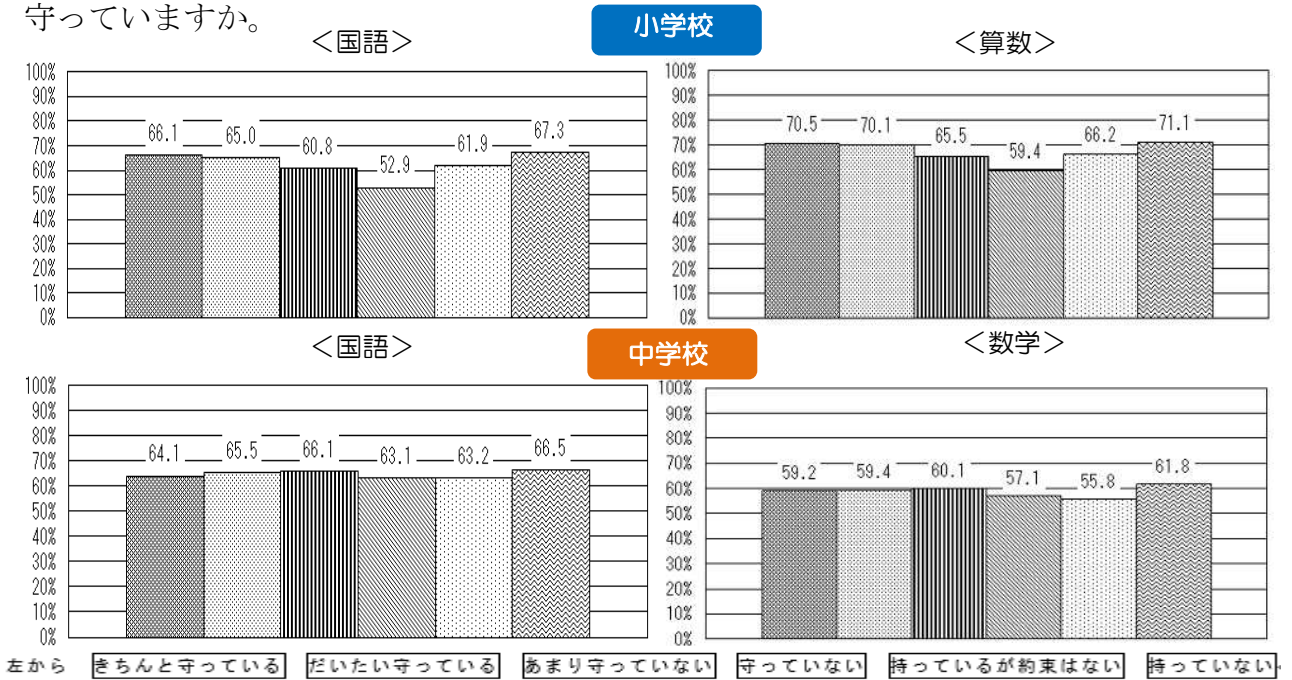
○ 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



- 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。



- 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。



<考察>

- 以上の結果から、生活習慣に関わる各質問について、学力との相関関係は高いことが分かります。今後も、睡眠や朝食など、基本的な生活習慣を整えていくように指導することが大切です。
- 「スマートフォン等の約束を守っているか」という質問は、明確な相関関係は見られませんでした。しかし、今の子どもたちは情報化社会の中で生きていくことを踏まえると、今後も学力との相関や情報端末の関わり方については、注視していく必要があると考えます。

(5) 新教育プログラム (①②③⑤) と関連する質問

《四日市市新教育プログラム》



令和2年度からスタート！現在の関連する学力は？

夢と志を持ち 自らの未来をつくるよっかいちの子

学習や生活の基盤となる言語能力

社会人になっても通用する問題解決能力

情報社会に主体的に参画する情報活用能力

1 読む・話す・伝えるプログラム

2 論理的な思考で直面くつきりプログラム

3 英語でコミュニケーションの四日市プログラム

4 運動大好き！走・跳・蹴のプログラム

5 夢と志！よっかいち・輝く自分づくりプログラム

6 四日市ならではの地域資源活用プログラム

柱1

読む・話す・伝えるプログラム

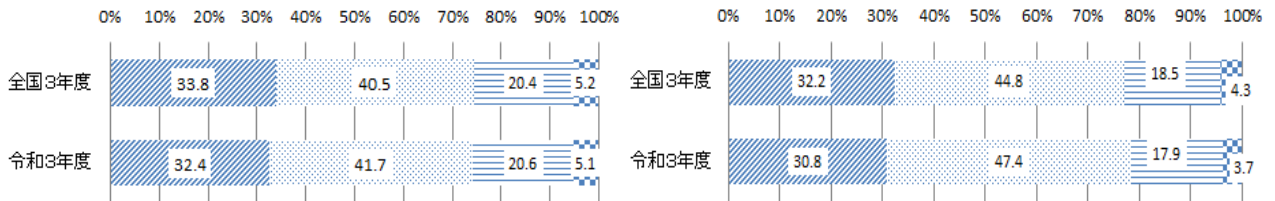
読解力向上について重点的に指導するとともに、読む・話す・書くといった活動を通して、学校教育活動全体で言語活動の充実を図る。それにより、「文章を正確に理解し、適切に表現する資質・能力」を育成します。



※ 左：小学校 右：中学校

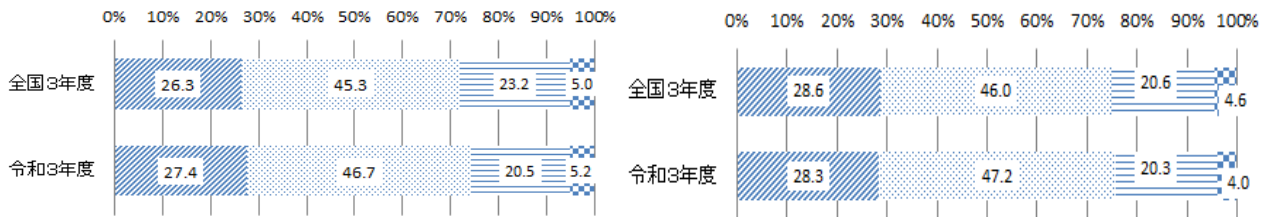
読む

- 国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりしていますか。



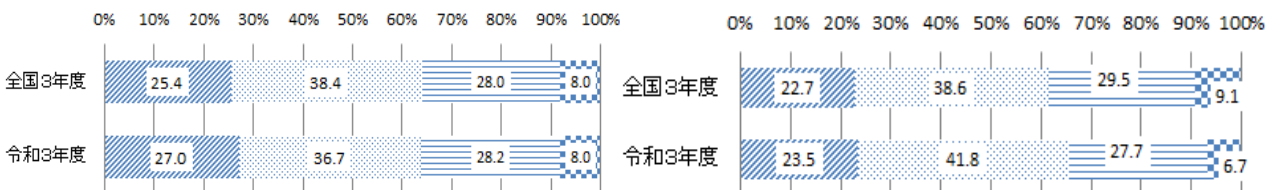
書く

- 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして（自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように）書いたり表現を工夫して書いたりしていますか。



話す・聞く

- 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか。



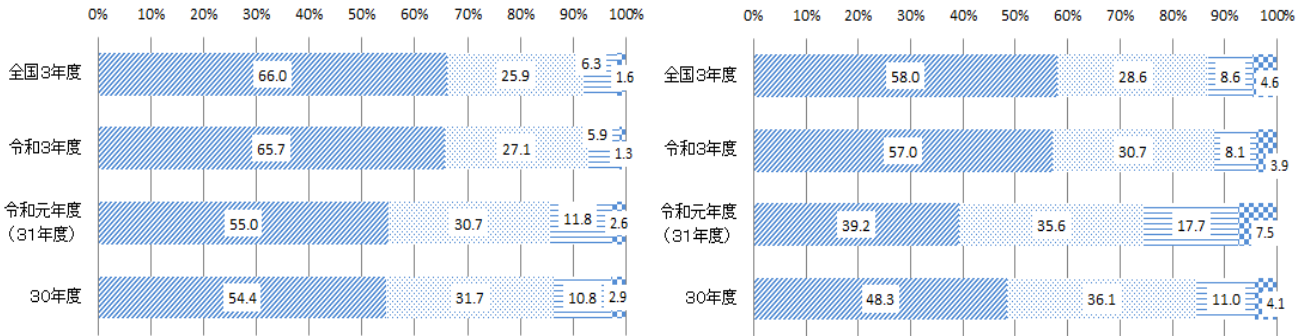
柱
2

論理的な思考で
道筋くっきり
プログラム

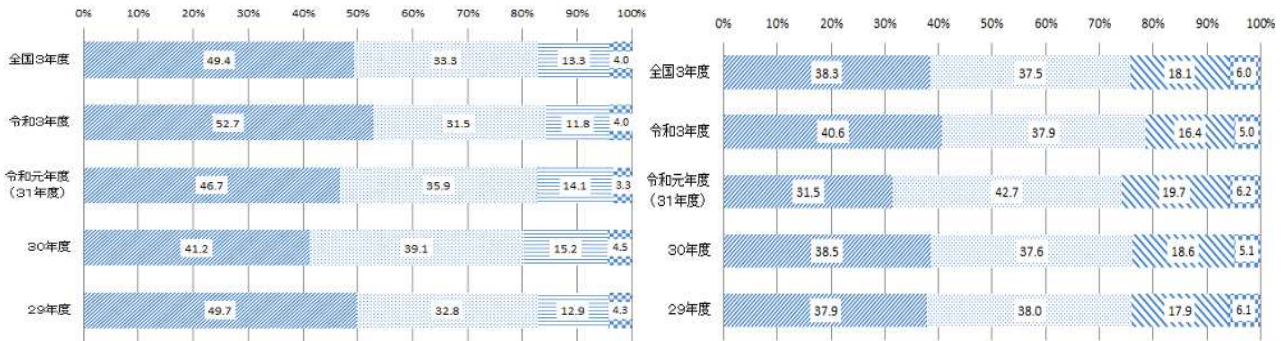
本市の強みである算数・数学の力をさらに伸ばすとともに、情報活用能力の育成を図る。加えて、プログラミング体験等を通してプログラミング的思考を育むなど、これからの時代に求められる論理的思考力を育成します。



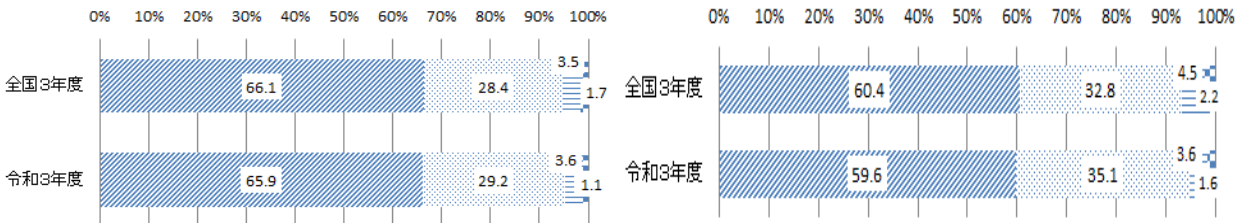
○ 算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。



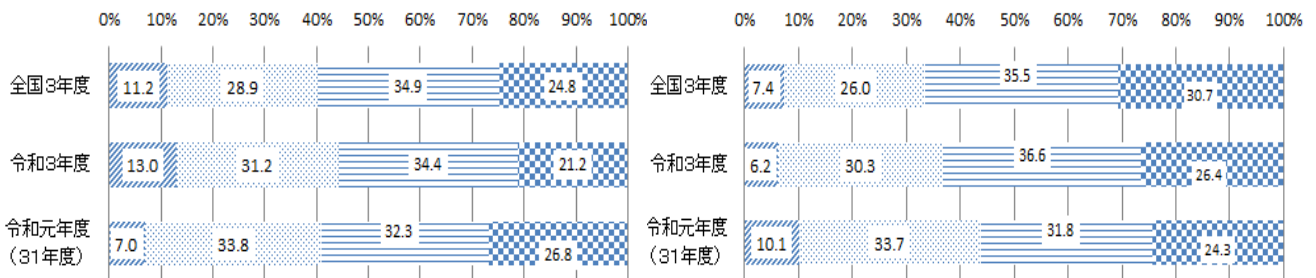
○ 算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか。



○ 学習の中でコンピュータなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。



○ 5年生まで受けた授業（1、2年生のときに受けた授業）で、コンピュータなどの ICT をどの程度使用しましたか



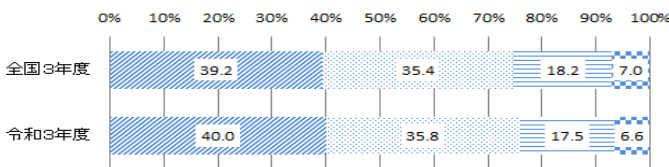
柱3

英語でコミュニケーションIN四日市！
プログラム

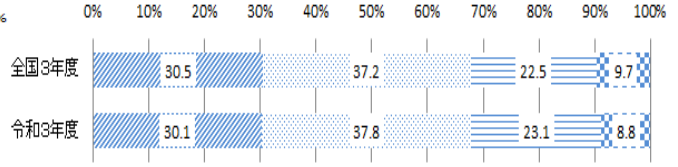
就学前から英語に出会い、聞く・読む・話す・書くの4技能を統合した言語活動により、発達段階に応じた英語コミュニケーション能力を育成し、英語で四日市を語ることのできる子どもたちを育てます。



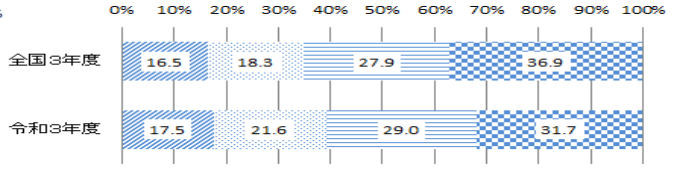
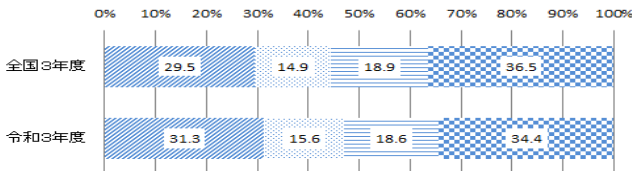
○ 5年生までに受けた英語の授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか。(小のみ)



○ 1、2年生のときに受けた英語の授業では、英語で話したり書いたりして、自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか。(中のみ)



○ これまで、(小：学校の授業やそのための学習以外で)(中：学校の授業やそのための学習以外で)、日常的に英語を使う機会が十分にありましたか(地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど)。



柱5

夢と志！
よっかいち
輝く自分づくり
プログラム

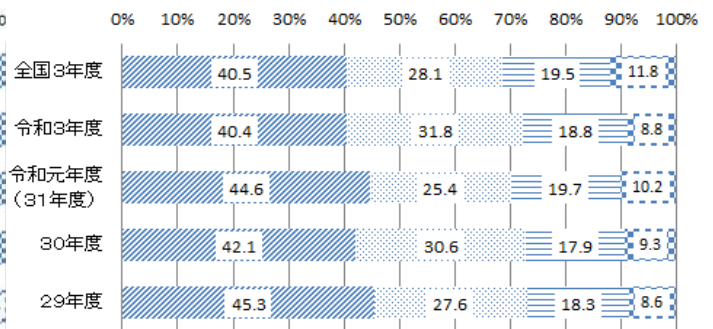
体系的なキャリア教育の取り組みを通して、子どもたちが自身の夢や志の実現に向けて「学び続ける」ために、「何のために学ぶのか」という目的意識や、「学ぶこと」と社会とのつながりを意識した主体的な学習意欲を持つとともに、社会的・職業的自立に向けて必要な基礎となる資質・能力を育成します。



○ 自分には、よいところがあると思いますか。



○ 将来の夢や目標を持っていますか。



6 学校質問紙の結果について

(1) 全国学力・学習状況調査問題の活用

ほとんどの質問において、全国平均と比較すると肯定的な回答をした割合は高くなっています。各学校で自校の結果を分析し、その結果を校内研修会などにおいて、指導改善に結び付けていることが分かります。

しかし、「学習指導要領の理解を深めるため、校内研修等で、個別の問題を題材として取り上げている。」の質問については、中学校の肯定的回答の割合が42.9%と低くなっており、全国平均と比較しても3.9ポイント下回っています。国語や数学の結果分析については、各教科が中心になってきますが、そこからみえる課題については、国語や数学以外の教科でも意識できることが多くあります。今後は、分析から得られた指導上の課題については、校内研修等で共通理解するように働きかけていきます。

※肯定的な回答をした割合

番号	調査項目	種別	本市	全国
	全国学力・学習状況調査の問題(教科に関する調査)を具体的にどのように活用していますか。			
88-1	①学習指導要領の理解を深めるため、調査対象学年・教科の教員で出題意図を確認している。	小	100.0	91.0
		中	95.2	88.9
88-2	②学習指導要領の理解を深めるため、調査対象学年・教科の教員以外の教員も出題意図を確認している。	小	91.7	73.4
		中	90.5	61.5
88-3	③学習指導要領の理解を深めるため、校内研修等で、個別の問題を題材として取り上げている。	小	83.3	65.0
		中	42.9	46.8
88-4	④問題全体を活用し、校内研修等を通じて、授業の改善を行っている。	小	94.4	69.8
		中	81.0	59.9
88-5	⑤学力・学習状況の把握のため、授業の中で取り上げている。	小	94.4	77.9
		中	90.5	77.4
88-6	⑥学力・学習状況の把握のため、児童生徒への家庭学習等の課題の参考としている。	小	94.4	69.8
		中	61.9	64.7
88-7	⑦学校が独自に実施するテストや、学力・学習状況調査等で作問する際に参考としている。	小	66.7	49.4
		中	90.5	77.5
88-8	⑧教員が独自に作成する教材の内容を検討する際に参考としている。	小	83.3	66.1
		中	95.2	81.5
88-9	⑨保護者や地域の人々の学校教育活動への協力・連携を進めるために活用している。	小	72.2	45.9
		中	57.1	43.6

(2) 全国学力・学習状況調査の趣旨等を踏まえた授業改善

全国学力・学習状況調査の調査問題は、新しい学習指導要領が求める育成を目指す資

質・能力について、具体的なメッセージとなるように作成されています。そのため、学校においては教員の授業改善や、児童生徒の学習改善・学習意欲の向上などに役立てることが大切です。

本市では、学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、各教科等の結果分析を行うように指示しています。そのことが以下の結果に表れていると考えています。

今後も、結果分析を丁寧に実施し、そこから指導上の課題等を見つけ、授業改善につなげていきます。

番号	調査項目	種別	本市	全国
	全国学力・学習状況調査の結果を、教育活動の改善のために、具体的にどのように活用していますか。			
90-1	①児童生徒の傾向や課題を把握するために活用している。	小	100.0	98.6
		中	95.2	97.0
90-2	②学校が実施する学力・学習状況調査等、他の調査結果を組み合わせた分析を行っている。	小	88.9	75.7
		中	95.2	73.2
90-3	③学校が独自に作成する教材の内容を検討する際に活用している。	小	83.3	54.8
		中	71.4	65.1
90-4	④学校が独自に実施するテストや、学力・学習状況調査等で作問する際に参考としている。	小	80.6	48.1
		中	85.7	77.0
90-5	⑤学力向上等の施策の成果・課題、費用対効果等の評価に活用している。	小	88.9	67.0
		中	71.4	60.2
90-6	⑥保護者や地域の人の学校教育活動への協力・連携を進めるために活用している。	小	88.9	56.7
		中	71.4	51.7
90-7	⑦課題が見られた点を中心として校内研修を実施し、授業改善に活用している。	小	94.4	87.7
		中	90.5	76.2

(3) 学習習慣の確立と学習補充の充実

小中学校のほとんどの質問において、全国平均と比較して高い割合を示していることが分かります。

しかし、「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度まで、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かしましたか」という質問については、中学校において全国平均を4.4ポイント下回っていました。学校での学習と家庭学習については、互いに深く関連しているべきものであり、特に教員から与えた課題については、その結果や課題等を評価し、指導の改善につなげていかなければなりません。

今後は、「取り組んだか」の確認だけでなく、その結果を教員が自身の授業につなげていけるように働きかけていきます。

①家庭学習について

番号	調査項目	種別	本市	全国
85	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか(教科共通)	小	100.0	90.6
		中	95.2	85.5
86	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしましたか(教科共通)	小	100.0	95.5
		中	100.0	91.9
87	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かしましたか(教科共通)	小	97.2	89.4
		中	81.0	85.4

②補充学習について

番号	調査項目	種別	本市	全国
49	調査対象学年の児童生徒に対する国語の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか。	小	91.6	85.4
		中	90.5	86.5
55	調査対象学年の児童生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか。	小	100.0	94.6
		中	100.0	92.7

(4) 授業づくりの工夫

小中学校のすべての質問において、全国平均を上回っています。今後もこれらの質問の内容については、「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の視点として意識していきます。

番号	調査項目	種別	本市	全国
34	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。	小	91.6	87.7
		中	95.2	84.5
35	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか。	小	100.0	96.6
		中	100.0	95.1
36	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。	小	97.3	88.1
		中	95.3	86.9
37	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか。	小	100.0	81.4
		中	85.7	72.6
38	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習を、計画的に取り入れましたか。	小	88.9	73.1
		中	90.5	67.6
48	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業の中で目標(めあて・ねらい)を児童生徒に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか。	小	100.0	98.3
		中	100.0	97.8

(5) 小中の連携（学びの一体化）

小中学校すべての質問において、全国平均を大きく上回っています。平成18年度から全中学校区で学びの一体化として、幼小保小中の連携を進め、「確かな学力」「健やかな成長」をめざし、取り組みを進めてきた結果だと考えています。

今後も中学校区で連携して、校区の子どもたちを共に育てていく指導体制をしっかりと整備していきます。

番号	調査項目	種別	本市	全国
77	前年度までに、近隣等の小中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか。	小	100.0	59.1
		中	81.0	65.0
78	前年度までに、近隣等の小中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか。	小	91.6	57.4
		中	100.0	65.1

(6) ICTの活用

小中学校すべての質問において、全国平均を大きく上回っています。今後も、すべての教科等の授業の際に効果的に活用するとともに、児童生徒に対しても、自らの学習を支えるツールとして活用できる力を育てていきます。

番号	調査項目	種別	本市	全国
71	あなたの学校では、教職員と児童生徒がやりとりする場面でコンピュータなどのICT機器を活用した取組をどの程度行っていますか。	小	75.0	44.7
		中	90.4	41.5
72	あなたの学校では、児童生徒同士がやりとりする場面でコンピュータなどのICT機器を活用した取組をどの程度行っていますか。	小	72.2	30.1
		中	71.4	25.8
74	あなたの学校では、児童生徒が1人で活用する場面でコンピュータなどのICT機器を活用した取組をどの程度行っていますか。	小	88.9	74.6
		中	80.9	62.6

7 今後の取り組みの重点

《主として学校において》

1 全国学力・学習状況調査の活用等

(1) 学力調査に関わって

- 全教職員が問題を解くことで、出題のねらい、今後求められる力等を把握するとともに、調査実施後、児童・生徒の解答類型から、つまずきを把握・分析して指導の重点を明確にする。
- 全国の結果との比較や、経年での変化を把握することで、学校としての強み・弱みを明らかにし、全校及び学年で、学力向上に向けた取り組みを進める。

(2) 学習状況調査に関わって

- 学習状況調査の結果と学校の取り組みと照らし合わせることで、指導の効果を検討・改善する。
- 学校質問紙を併せて分析することで、児童・生徒と指導者の意識のズレを把握し、指導改善につなげる。

(3) 「学びの一体化」と関わって

- 本調査で得られた強み・弱みについて、中学校区で共通理解を図り、発達段階に応じた指導方法等の連携を図る。
- 家庭学習や補充学習について、従来の方法を見直すなど、さらなる改善に取り組む。
- 保護者への働きかけの充実を図る。
 - ・ 家庭学習の定着、自主学習ノートによる定着、シラバスやHPを活用した家庭への啓発 等
 - ・ 補充学習の充実、長期休業及び放課後等の学習、「全体」と「個別」の補充学習の検討 等
 - ・ 課題について調べ自分の考えをまとめるなど、知識・技能の活用を目指す宿題 等

2 問題解決的な授業づくり（「四日市モデル」問題解決能力を育む5つのプロセス）

ポイント① 新学習指導要領の趣旨を踏まえ、各教科・単元・授業において育成する資質・能力を明確にする。

ポイント② 子どもたちが主体的・対話的に学ぶ視点を大切にし、単元・授業を構想する。

(1) 第1プロセス「問題の理解」

- 学習課題等の設定により、児童生徒の問題意識や解決しようとする意欲を喚起させる。【学習課題等の提示】
 - ・ 身に迫った切実感のある課題を提示するなど、児童生徒が考えざるを得ない状況をつくる。
 - ・ 「～を活用して」など知識や技能の活用や、「ペアで～しよう」など協働的な学びを促す。
 - ・ 「なぜ？」と根拠や原因を考えさせたり、「～を説明しよう」などアウトプットを意識させたりする。
 - ・ 実生活、実社会などにつながる学習課題や問題等を工夫する。
- 学習課題等と合わせた「授業のゴール」を子どもの姿として設定する。【評価規準の明確化】

(2) 第2プロセス「問題の特徴づけと表現」

- 問題意識等を大切にしながら、解決するための糸口がつかめるように支援する。【問題解決の見通し】
- 見通しを持たせる場面において、ICT機器を効果的に活用する。【指導者のICT機器の活用】

(3) 第3プロセス「問題の解決」

- ねらいに合わせた主活動（言語活動等）を設定する。【主活動の時間確保と言語活動の充実】
- 児童生徒の問題意識等に合わせて、自力解決をしたり、互いの考えを交流したりすることができるようにする。
 - 【個の問題意識に合わせた解決（学び合いを含む）】
- 児童生徒のつまずきとそれに合わせた支援を準備する。【つまずきへの適切な支援】
- 児童生徒がICT機器や思考ツール等を活用できるようにする。【児童生徒のICT機器等の活用】

(4) 第4プロセス「解決方法の共有」

- 児童生徒が自分の考えを説明したり、資料等を提示して根拠を示したりするような学習活動の充実を図る。
 - 【アウトプットする場の設定】

(5) 第5プロセス「問題の熟考と発展」

- 授業のねらいや学習活動を踏まえ、児童生徒自身が「何を学んだのか」、「何ができるようになったのか」を実感できる振り返りを行う。【学習の振り返り】
- 他の単元へのつながりや教科横断的な視点、さらに日常生活への活用を意識する。

【実社会・実生活につながる汎用的能力の視点】

3 「学習の基盤となる資質・能力」の育成

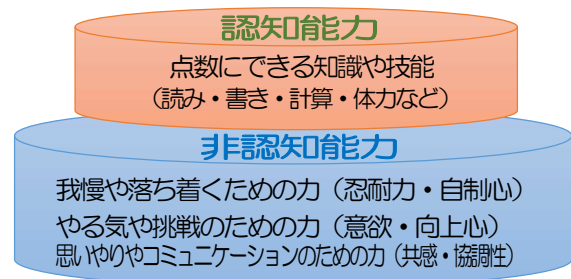
各学校においては、教科等の目標や内容を見通し、学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）について、教科横断的な学習を充実させることで、その資質・能力の涵養を図る。

言語能力	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の働きや役割に関する理解、言葉の特徴やきまりに関する理解と使い分け、言葉の使い方に関する理解と使い分け、言語文化に関する理解等 ○情報を理解したり、文章や発話により表現したりするための力 <ul style="list-style-type: none"> ・創造的・論理的思考の側面 ・感性・情緒の側面 ・他者とのコミュニケーションの側面 ○言葉を通じて、社会や文化を創造しようとする態度、自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする態度、集団としての考えを発展・深化させようとする態度、心を豊かにしようとする態度等
情報活用能力	<ul style="list-style-type: none"> ○学習活動において必要に応じて情報手段を適切に用いて情報を得たり、情報を整理・比較したり、得られた情報を分かりやすく発信・伝達したり、必要に応じて保存・共有したりすることができる力 ○情報手段の基本的な操作の習得や、プログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力等
問題発見・解決能力	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科等における問題の発見・解決に必要な力、各教科等で身に付けた力を統合的に活用する力等

4 非認知能力（社会情動的スキル）の育成

認知能力（点数化することができる力）の土台となる「非認知能力」（点数化が難しい力）について、すべての教育活動を通じて涵養を図る。

子ども一人一人にキャリア教育とも関連させて、自分が意識して伸ばす能力を見つめさせ、意図的・計画的・系統的に育成していく。



《主として教育委員会において》

1 情報発信の充実

- 本市調査結果の分析をホームページで公表する。
- 学校に合わせた具体的な改善方法や今日的な教育課題等について、研修会や学校訪問等で指導する。
- 「四日市モデル」（問題解決能力を育む5つのプロセス）等に基づく主体的・対話的な授業づくりを推進する。

2 学力向上にかかわる教育施策の整備

- 学校と連携した学力向上につながる教育施策の整備・改善・展開に努める。
 - ・新教育プログラムの推進
 - ・少人数指導の充実
 - ・ICTの効果的な活用
 - ・読書活動の推進
 - ・幼・こ・保・小・中が連携した学びの一体化事業の推進
 - ・四日市版コミュニティースクールの推進
- 学校への要請訪問において、学校の課題に応じた具体的な指導・助言を行う。

3 三重県教育委員会との連携

- 三重県教育委員会HP（授業サイクル支援ネット）のワークシートの活用を促進する。
- みえスタディ・チェックの結果分析等を授業改善に生かすよう働きかける。

8 参考資料

- 国立教育政策研究所
<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>
 - ・令和3年度全国学力・学習状況調査 解説資料 令和3年5月
 - ・令和3年度全国学力・学習状況調査 報告書 令和3年8月
 - ・授業アイデア例 令和3年9月
- 文部科学省
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm
 - ・小中学校学習指導要領、解説
 - ・小中学校学習指導要領等の改訂のポイント
 - ・社会に開かれた教育課程
 - ・育成すべき資質・能力の三つの柱 など
- 内閣府等
https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html
 - ・Society 5.0
- 外務省等
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>
 - ・SDGs 関係資料
- 三重県教育ビジョン
- 小・中学校教育指導方針～生きる力 共に生きる力をはぐくむ教育～（四日市市教育委員会）
- 問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック2（四日市市教育委員会）
- 家庭、学校、地域社会における社会情動的スキルの育成
 国際的エビデンスのまとめと日本の教育実践・研究に対する示唆
 （池迫弘子 宮本晃司 ベネッセ教育総合研究所（訳））
<http://www.oecd.org/education/ceri/FosteringSocialAndEmotionalSkillsJAPANESE.pdf>

など

令和3年8月市議会
定例月議会
本会議審議等内容報告

四日市市教育委員会

請 願

- 子どもの貧困対策の推進と就学・修学支援
に関わる制度の拡充を求める請願
- 教職員定数改善計画の策定・実施と教育予
算拡充を求める請願
- 防災対策の充実を求める請願
- 義務教育費国庫負担制度の充実を求める
請願

令和3年8月議会(請願)の質問質疑に対する答弁と今後の対応策等

◎子どもの貧困対策の推進と就学・修学支援に関わる制度の拡充を求める請願

請願内容要旨:子どもの貧困対策の推進と就学・修学支援に関わる制度が拡充するよう、
国の関係機関に意見書を提出することを求める。

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>豊田 政典 (新風創志会)</p>	<p>①請願を採択した時には国に意見書を提出しているが、それによってこれまで国の政策や援助や事業は多少になりとも進んでいるのか。それとも全く変わっていないのか、状況を教えて欲しい。</p> <p>②今回団体数が6団体といつもより多くないか。</p>	<p>(請願者)</p> <p>①高等学校の就学支援金制度は、対象となる学校が決められているが、対象校が増えている。また、一昨年度、私学への給付金額が引き上げられており、請願の効果だと思っている。</p> <p>②請願については、三重県PTA連合会、高等学校PTA連合会、幼稚園長会、小中学校長会、高等学校校長会、教職員団体6団体が教育に関する課題を検討して話し合っている。</p>
<p>◎採択とする</p>		

令和3年8月議会(請願)の質問質疑に対する答弁と今後の対応策等

◎教職員定数改善計画の策定・実施と教育予算拡充を求める請願

請願内容要旨:子どもたちの「豊かな学び」の保障にむけ、教職員定数改善計画の策定・実施と教育予算の拡充を行うよう、国の関係機関に意見書を提出することを求める。

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
()	質疑なし	()
◎採択とする		

令和3年8月議会(請願)の質問質疑に対する答弁と今後の対応策等

◎防災対策の充実を求める請願

請願内容要旨: 子どもたちの安心・安全を確保するため、巨大地震等の災害を想定した
防災対策の充実をはかるよう、国の関係機関に意見書を提出することを求める。

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
豊田 政典 (新風創志会)	請願第4号と同じく、請願を出すことによって、近年の国の取り組みは進んでいるのどうかを教えてください。	(請願者) 災害はいつやってくるかわからないし、コロナウイルスだけでなく、ノロウイルス等の様々な感染症対策を講じた避難所運営が必要であると考えている。その点も踏まえて、防災対策の充実を求めるという主旨で請願を提出した。
小田 あけみ (フューチャー四日市)	①津波時の浸水区域にどれだけの小中学校があるのか ②津波の際には小中学校が避難所になっても大丈夫か。 ③整備には国の補助制度を利用しているのか。	(教育施設課長) ①小中学校併せて18校あり、津波避難ビルとして整備も完了。 ②3階と屋上に避難できるよう屋外階段を設置している。また、屋上に自家発電装置を設置し、一夜分の避難所の電源を確保できるようにしている。 ③国の補助金を利用し整備している。
◎採択とする		

令和3年8月議会(請願)の質問質疑に対する答弁と今後の対応策等

◎義務教育費国庫負担制度の充実を求める請願

請願内容要旨:義務教育費国庫負担制度が充実され、国の責務として必要な財源が確保されるよう、国の関係機関に意見書を提出することを求める。

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
小川 政人 (政友クラブ)	①四日市市教育委員会との話し合いは毎年されているのか。 ②何回程実施しているのか。 ③議会として内容について反対するものではないが、教育委員会と年に1回だけでなくもっと密接に話し合いを行うべきでは。(意見)	(請願者) ①教育懇談会という形で行っている。 ②年に1回。
◎採択とする		

決算常任委員会
教育民生分科会

令和3年8月議会(決算常任委員会:分科会)決算の質問質疑に対する答弁と今後の対応策等

◎ 決算

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
笹岡 秀太郎 (政友クラブ)	<p>○博物館の新型コロナ感染防止対策について</p> <p>①博物館の抗ウイルスコーティングについては、市民の安心安全や感染リスクの抑制につながるため、検討してはどうか。</p> <p>②全国の施設でコーティングの施工をしているところもあるが、現状の博物館としての判断は、どの施設を参考にしているのか。</p> <p>③感染抑制というのは行政の最大の課題である。技術的に対応できる部分についてはしっかりと対応していくことは大事だし、調べたものを十分検証して、新型コロナウイルス感染症の収束後には集客して欲しい。(意見)</p>	<p>(博物館副館長)</p> <p>①市の方針のもと、引き続き施設管理者で行える基本的な対策を徹底する。</p> <p>②抗ウイルスコーティングに使用する薬剤は自然由来のものであるが、資料への影響が未知数である。大阪市の科学館や横浜市のこどもミュージアムなどは全面的に使用しているが、大阪市の陶磁美術館、歴史博物館では展示室内での使用を控えている。</p>
土井 数馬 (市民eyes)	<p>○博物館の新型コロナ感染防止対策について</p> <p>博物館の抗ウイルスコーティングについては、コロナ対策のためのオプションという考え方ではなく、これからの時代には標準装備という考え方で捉えてほしい。(意見)</p>	
豊田 政典 (新風創志会)	<p>○四日市市の奨学金について</p> <p>①累積滞納額が年々増えてきているのは何とかしなければいけない。</p> <p>②新制度が実施されるのはいつの予定か。</p>	<p>(教育総務課長)</p> <p>①現在、新規の滞納者を増やさないように特に初期滞納者に対して対策をとっている。</p> <p>②今年度募集の令和4年度奨学生から新制度となる。入学支度金については令和3年度当初予算で認めてもらっている。</p>
豊田 政典 (新風創志会)	<p>○小中学校におけるエレベーターの整備について</p> <p>エレベーターは校舎改築時に進めていくのは分かったが、現場の要請との兼ね合いはどうか。</p>	<p>(教育施設課長)</p> <p>要支援者が入学の際にはエレベーターの要望はある。教育委員会としては中学校給食、改築事業、空調整備にも力を入れており、エレベーター整備は改築時に進めているのが現状。</p>
土井 数馬 (市民eyes)	<p>○小中学校におけるエレベーターの整備について</p> <p>エレベーター整備を給食の導入に向けて整備しているが、給食は全部の生徒が関係するから整備し、障害のある生徒は一部のため整備の議論が進まなかったのか。エレベーター設置は、給食についてだけでなく、障害のある子ども達も見据えて導入する考えはあるのか。</p>	<p>(教育施設課長)</p> <p>給食の運搬だけならば給食用リフトで十分であるが、バリアフリーの観点からもエレベーターを整備している。</p>

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>豊田 政典 (新風創志会)</p>	<p>○小中学校における除草作業について 学校によって取り組み方に温度差があるだろうが、児童生徒の教育の一環としても大切。課題があれば教えてほしいし、今後やり方を変えていく考えがあれば合わせて示してほしい。</p>	<p>(指導課長) 教育活動の一環として、今後も日々の清掃活動として、児童生徒による除草作業を進めていく。法面作業など危険を伴う作業については、教育委員会で市内業者を雇って対応していきたい。</p> <p>(教育施設課長) 法面除草は危険がともなうため、既に教育委員会で実施している。除草以外にも学校の日常業務には剪定業務、樹木管理もあるが、これに対応する予算を増額することで、教育委員会として、学校の日常業務の負担軽減を図りたい。</p>
<p>小川 政人 (政友クラブ)</p>	<p>○過去5年間の教育費決算額について ①教育費予算が全体に対して少ないのもっと増やしていった方がよいのではないかと。 ②教育委員会の立場がもっと強くなるようにして欲しい。教育員会は執行機関なので、教育委員会で決めたことは教育委員会でやっていたかなければならない。</p>	<p>(教育総務課長) ①総合計画や推進計画に位置づけている事業について、着実に進められている。新型コロナウイルスや、ICTの推進などで状況が変化してきているので今後も必要な予算について議会に諮りたい。</p> <p>(教育長) ②スポーツ・国体推進部が分離して学校教育と社会教育に特化した状況で予算が100億を超えている。総合計画に重点施策も掲げており、今後も新しいビジョンについて総合計画とリンクしたものを出していく中で予算の確保をしていきたい。新しい教育としてICTや空調も整備を進める中で必要な予算は要求していきたい。</p>
<p>村山 繁生 (フューチャー 四日市)</p>	<p>○過去5年間の教育費決算額について ①教育費を増やすべきという話には大いに賛成する。平成30年も減っており、前の資料で見た29年度の数字から20億ぐらい減っているように思うが、空調整備の問題か。 ②自治体によっては、一般会計の2割ぐらいを教育費に当てているところもある。四日市市も最低10%は取るべきだと思う。これは多くの予算を要求して、この額になったのか。</p>	<p>(教育総務課長) ①30年度が大きく決算額が減っている主な理由はスポーツ課がスポーツ・国体推進部となって教育委員会から部局が分かれて、スポーツに関する部分の予算が教育費から総務費に変更になったということが一番大きい。</p> <p>(教育長) ②予算調整の中で要望しているが、現状、給食、空調、ICTの整備についてはかなりスピード感を持ってやっていることで、そこを優先して取り組んでいるということと、ソフトの部分でも、SSWについても要望している。ただ、ICTサポーターやSSWのような新しい職種は人がいないという状況もある。社会的な整備についても、SSWでは鈴鹿医療大学とも提携し、人材の育成も進めながら新しい支援のシステムに関わる要望もしながら進めていきたい。</p>

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
村山 繁生 (フューチャー 四日市)	<p>○SSW・SC・HS・SLの活用状況について</p> <p>①主要施策の効果と本日の資料でSSWの派遣回数や派遣時間が異なるのはなぜか</p> <p>②SSWを導入することで、問題の改善や解消の効果はあったか。</p> <p>③テレワークなどの実施により、家庭環境の変化によるトラブル等もは発生しているのではないか。拡充を考えているか。</p>	<p>(指導課長)</p> <p>①カウントの仕方の違いで、差が生じた。</p> <p>②関係機関と連携したケース会議を行い、専門家のアドバイスにより、保護者対応を一步前進することができる。また、SSWが保護者との面談を重ねることで、保護者の意識が変わり、学校と連携して検討することが可能となる場合がある。</p> <p>③拠点校方式を増やすなど、拡充をしていきたい。</p>
小川 政人 (政友クラブ)	<p>○SSW・SC・HS・SLの活用状況について</p> <p>実績について、教育委員会内で勝手に考え方を考えるのはいかがなものか。のべ人数や回数でカウントするなど、基準を統一すべきである。</p>	<p>(指導課長)</p> <p>ご指摘のとおり、今後、慎重な資料作成に努める。</p>
小田 あけみ (フューチャー 四日市)	<p>○SSW・SC・HS・SLの活用状況について</p> <p>①チーム学校と言われるが、SC、SSW、HS等とどのように連携していくのか。ケース会議や相談アプリ導入との関わりは怎么样了のか。</p> <p>②派遣の必要性の判断はだれが行うのか。</p> <p>③週1回程度派遣でSCがどの程度学校に浸透しているのか。</p>	<p>(指導課長)</p> <p>①必要に応じて指導課やSC等がケース会議に参加し、連携を図っている。状況に応じて、関係機関との連携方法を検討している。相談アプリの活用については、学校と協議しながらいじめの解決等につなげていきたい。</p> <p>②派遣の必要性については、学校と指導課が相談し判断している。</p> <p>③定期的にSCが校内会議に入るなど、情報共有を行っている。</p>
森川 慎 (無会派)	<p>○SSW・SC・HS・SLの活用状況について</p> <p>①SC、HS、SLの増員は検討しているか。</p> <p>②SLはモデル配置だが、今後本格的な運用や制度の作り方はどのように考えているのか。</p>	<p>(指導課長)</p> <p>①子どもたちの心の安定のためにも、増員をしていきたいと考えている。</p> <p>②昨年度、学校の抱えている法的相談に入ってもらったら、対応ができる方向が見えた等の好意的な意見をいただいている。まだまだ時間数が少ないので、ここについては充実させていきたい。</p>
日置 記平 (政友クラブ)	<p>○SSW・SC・HS・SLの活用状況について</p> <p>①SC、SSW、HSの相談件数に差がある理由は何か。</p> <p>②SSWの相談内容について、令和元年度から令和2年度に相談件数が増加している理由は。</p> <p>③最近、本を読んでいたら、教育環境、家庭環境が10年前と大きく変わっているという指摘があった。教育長中心に体制をしっかりと極力いい関係に持っていけるように努力して頂きたい。(意見)</p>	<p>(指導課長)</p> <p>①SCは全校配置しているので、相談件数が多い。SSWやHSは、学校から要望等がある場合に派遣している。</p> <p>②拠点巡回型配置校区を1中学校区から5中学校区に増やし、児数が増えたため。</p>

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
豊田 政典 (新風創志会)	<p>○体育授業(水泳)における安全向上に係る指導員等の役割と配置について</p> <p>①水泳授業における指導員を希望する学校に対する派遣は、各学校で対応しているのか。それとも、教育委員会から派遣するのか。</p> <p>②部活動指導員の派遣は各校で対応しているのか。</p> <p>③部活動協力員について、なぜ3校限定なのか。また、配置の方法はどのようにしているのか。</p>	<p>(指導課長)</p> <p>①各学校に任せている。近隣のスポーツクラブや地元の方など、各学校で指導員を探してもらっている。指導員を配置したいが、指導員を探すことができない場合は、教育委員会でも相談を受け協力している。</p> <p>②両方の場合がある。学校の方で、非常勤講師で得意なスポーツがある先生がいる場合も有るし、教育委員会で探した事例もある。これについては様々で、基本は学校で人材がいればお願いしている。</p> <p>③小規模校を中心に再任用短時間勤務が可能な方を配置している。人材については、基本は学校で対応。種目指導はできても部活動指導が難しい場合もある。年度によっては必要ないという学校もあるので、3校が妥当である。</p>
森川 慎 (無会派)	<p>○体育授業(水泳)における安全向上に係る指導員等の役割と配置について</p> <p>部活動指導員、協力員はどのように学校に配置されるのか。現場の声を反映しているのか。</p>	<p>(指導課長)</p> <p>希望のあった学校に配置している。</p>
豊田 政典 (新風創志会)	<p>○インクルーシブ教育推進事業について</p> <p>①現場では介助員・支援員の人数が足りないと聞く。とりわけ支援員が少ない事情は何か。</p> <p>②支援員について、校長の要望数と実際の配置数との整合性はどうか。</p> <p>③支援員は本当に足りているのか。</p> <p>④川越、朝日、菰野は手厚く付いていると聞くが。全国一律の配置基準はないのか。</p>	<p>(教育支援課長)</p> <p>①介助員は小学校では中学校より多め。学級の人数、障害の状況に応じて配置している。</p> <p>②支援員の配置は各校1～0人。校内で運用を工夫し、複数の児童に対応している。サポートルームでの指導や転籍の検討等いくつかある校内支援の一つである。</p> <p>(特別支援教育・相談GL)</p> <p>③配置要望数と配置数は近い。対象児の観察を行い、配置している。指導方法の改善や指導計画の作成を助言し、経過観察を行う場合もある。その後、必要性や効果が認められる場合には配置している。</p> <p>(教育支援課長)</p> <p>④支援員の配置が有効であるか見極めが必要。そのための支援も行っている。三町の配置数は手元にない。一律の基準はない。</p>
森川 慎 (無会派)	<p>○インクルーシブ教育推進事業について</p> <p>①支援員の人材があまりいないのか。あまり応募してくる人がいなくて確保が難しい人材なのか。</p> <p>②支援員には資格は必要か。</p>	<p>(特別支援教育・相談GL)</p> <p>①ちょうどよいぐらい応募がある。年間を通じて補充していくので、常に募集をかけている。</p> <p>②資格は不要。</p>

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
豊田 政典 (新風創志会)	<p>○学校業務アシスタントについて</p> <p>①人員配置について、成り手が不足していることはあるのか。</p> <p>②時間外勤務について、学校現場の働き方改革に取り組んでいることは理解しており、いいことだと思うが、実態よりも少ないのではという危惧があるが正直なところどうか。</p>	<p>(学校教育課長)</p> <p>学校の配置数に人員が不足しているということはなく、今のところ充足している。考え方として、不足が見込まれるときには、ハローワークに出したり、広報にあげたりすることは考えているが現在は充足している。</p> <p>②日々偽りのないようという校長からも教育委員会からも正直に勤務時間を打刻をするように指導している。</p>
森川 慎 (無会派)	<p>○学校業務アシスタントについて</p> <p>①数年前に比べると、数字的には劇的に時間外が減っているが、実際そうなのか。過労死ラインを超えるような先生や、年間1,000時間を超えるような先生は減っているのか。</p> <p>②新型コロナウイルスの影響で、業務の増加やオンライン授業等による縮減はあるか。</p>	<p>(学校教育課長)</p> <p>①時間外については、令和元年に働き方のガイドラインが出て、全国的に労基法の改正によって激減している実感はある。先ほど指摘のあった750時間超えの教員も激減している。施策としてのハード面の整備、職員の意識改革、校長の服務管理がしっかりとしてきたのかと思うが、まだゼロではないので今年からはここにもメスを入れていかなければならないと思って進めている。</p> <p>②新型コロナウイルスの影響としては、令和2年に休校を余儀なくされ、学校行事そのものを精選し、感染予防を最優先にしてきた。それによって、学校行事の精選から、働き方改革、学校づくりを考えるようになったことが、プラスの方向にもつながった。これからのオンライン授業についても同じことが言える。</p>
笹岡 秀太郎 (政友クラブ)	<p>○学校業務アシスタントについて</p> <p>①学校業務アシスタントについて、データとしては90数%の教員が評価している。母数は全員なのか。</p> <p>②時間外も短縮されてきているようだが、学校によってはそうでないところも見受けられる。この数字をどのように感じるか。</p> <p>③数字が下がらなかったところに加配することはあるのか。</p>	<p>(学校教育課長)</p> <p>①常勤の職員全員のデータとなっている。</p> <p>②校長と面談をし、教育長からも、学校の様子を見た上で直接校長に指導している。校長に向けて、教育委員会から職員のやりがい、健康、服務管理を3本の矢でしっかりと職員を管理するように指導しているので、今年改善が見られるように大いに期待している。</p> <p>③学校の加配の状況というのは、学校の教育課題、その学校が目指す研究に必要な配置をしている。学校課題がどこにあるかという事を分析したうえで加配の配置はしていきたいと思っている。</p>
日置 記平 (政友クラブ)	<p>○文化財保護活用地域計画について</p> <p>現時点では市内に約2300件の文化財があるということ、市民に示したほうがより関心も高まると考えるが、どうか。</p>	<p>(社会教育・文化財課長)</p> <p>地域計画はパブリックコメントを行う予定である。文化財が収録された文化財リストをどこまで公開するかは今後検討するが、なるべく市民にもわかりやすいものとなるよう工夫していきたい。</p>

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
豊田 政典 (新風創志会)	○久留倍官衙遺跡公園の来館者数について新型コロナウイルスの収束後には、より多くの市民あるいは市外の方が訪れるように、さまざまな企画を打ってはどうか。	(社会教育・文化財課長) 当課は、令和4年度にシティプロモーション部に移管され、観光交流課や文化振興課と同じ部になる予定であるので、各課と連携してPRしていく。教育委員会とも連携し、小中学生が来園しやすくなるような取り組みを進める。

予算常任委員会
教育民生分科会
〔一般会計補正予算
(第6号)〕

令和3年8月議会(予算常任委員会:分科会)の質問質疑に対する答弁と今後の対応策等

◎補正予算(大規模改修事業費(小・中学校))

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>豊田 政典 (新風創志会)</p>	<p>①大規模改修を行う学校における和式トイレ、洋式トイレの比率の現状と、改修後の割合はどうか。</p> <p>②大規模改修の範囲外では、和式トイレが残るのか。児童生徒は和式トイレは使えるのか。</p> <p>③事業自体に反対するものではないので、子どもに対応できるようにしてほしい。</p>	<p>(教育施設課長) ①大規模改修を行う際は、工事対象範囲のトイレは100%洋式化していく。</p> <p>(教育監) ②近年家庭においてはほぼ100%洋式トイレ。和式の利用実績は0ではないが、児童生徒によりフィットするのは洋式トイレ。</p> <p>(教育施設課長補佐) ③四日市市の小中学校校舎における全体の洋式化率は令和2年度末で62.1%。今年は66%台を目指していきたい。全国平均は令和2年9月1日現在で57%。</p>
<p>土井 数馬 (市民eyes)</p>	<p>エレベーターをつけるのは改築時と聞いていたが、大規模改修時はどうか。</p>	<p>(教育施設課長) 改築時に整備をするという事ですすすめており、大規模改修時にエレベーターの整備はしていない。</p>

協 議 会

- 令和2年度本市におけるいじめ・不登校の状況報告について
- 第4次四日市市学校教育ビジョンの策定について
- コロナ禍における小中学校の取り組み状況について

令和2年8月議会(教育民生常任委員会:協議会)の質問質疑に対する答弁と今後の対応策等

◎令和2年度本市におけるいじめ・不登校の状況報告について

(指導課・教育支援課)

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
小田議員 (フューチャー 四日市)	四日市市いじめ問題対策調査委員会や四日市市いじめ問題対策連絡協議会は、実際にいじめ防止につながった例はあるのか。	(指導課長) 四日市市いじめ問題対策調査委員会では、いじめ起因とした欠席が続いたり、解決しがたい事案については、調査委員会に相談している。弁護士等の意見をいただき、自身をもって学校も対応することができる。
村山 繁生 (フューチャー 四日市)	<p>①SNSによるいじめについて、学校内でもあると思うし、発見されやすいと思うが、そのように対応しているのか。</p> <p>②示されている不登校数の中には、校内ふれあい教室や登校サポートセンターに通っている子もいるのか。</p> <p>③本当に何もせずに家に引きこもっている生徒の数はわかっているのか。</p>	<p>(指導課長) ①一人一台タブレットは入ったが、悪ふざけで使うことは難しく、家で、自分のスマホ等で行うケースが考えられる。ネットモラル感のないようないじめもあった。人権同和教育課との連携で、メディアリテラシーの学習や、青少年育成室との連携でのSNSの使い方の研修も行っている。</p> <p>(教育支援課長) ②それらに通う子も含まれる。</p> <p>(教育支援課副参事) ③令和2年度では、関係機関につながっていないが、学校で別室登校、放課後登校等を行っている子もいる。それも全く受けていない児童生徒は、小中ともに一桁である。</p>

令和3年8月議会(教育民生常任委員会:協議会)の質問質疑に対する答弁と今後の対応策等

◎第4次四日市市学校教育ビジョンの策定について

(教育総務課)

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>豊田 政典 (新風創志会)</p>	<p>①「夢や志を持ち、未来をつくるよっかいちの子ども」が基本理念であるが、実態として夢や志をもつ子どもの割合が低いことが懸念される。また、自分にはよいところがあると思う子どもや、運動が好きという子どもの割合の低下については、課題解決に向けた取組をお願いしたい。夢や志を持つ子どもの育成については、基本目標3で具体的な取組を行うということによいか。</p> <p>②第3次ビジョンまでの課題を整理し、このように取り上げていただいたことを評価したい。全市的に全校的に取組を進めていただきたい。(意見)</p>	<p>(教育監)指摘いただいた現状について、教育委員会においても課題として捉えており、その課題解決に向けた取組として、基本目標3を設定したところである。具体的には、自尊感情を高めることが重要であると考えていることから、まずは、個々のよいところを十分に伸ばすことに注力していきたい。加えて、キャリア教育において、未来を見据えて生きていく力を育成したいと考えている。</p>
<p>森川 慎 (無会派)</p>	<p>自分にはよいところがあるという質問項目について、平成30年度に全国も急激に落ちているので、分析をお願いしたい。(意見)</p>	
<p>土井 数馬 (市民eyes)</p>	<p>①目指す子どもの姿に「未来をつくるよっかいちの子ども」とある。将来、子どもたちが大人になったときに、気候変動や持続可能な社会、循環型社会など、世界的に目まぐるしく変動する中、基本目標3に力点において、取組を進めていただきたい。</p> <p>②「共に生きる」ことは大切だが、これからは全く違う社会になっていくことが想定される。今の時期から、この社会の大きな変動に対しても、柔軟に対応できるような力を子どもにつけるとともに、社会が大きく変化していくことを子どもたちに教えていってほしい。(意見)</p>	<p>(教育監) ①持続可能な社会に貢献するためには、自分はどうに考え、自分がどのような力をつけていけばいいのかということについて、子どもたち一人一人の価値観や社会に求められる力を共有していきたい。そのためには、四日市がこれまで大切にしてきた「生きる力」に加え、「共に生きる力」が大切である。テストでははかることができない粘り強さの育成など、非認知能力の育成により注力していく必要があると考えている。</p>
<p>日置 記平 (政友クラブ)</p>	<p>①基本目標5-(1)「学校経営の充実」について、学校経営の充実とは具体的には何か。</p> <p>②大きな目標だが、義務教育の中で「経営」という大きな概念的な言葉が出てきたことはあまり記憶にない。第4次学校教育ビジョンにおいて、教育は、各科目の学習だけを行うものではなく、いかに社会に生きるための力を育成することであることを認識した。(意見)</p>	<p>(教育監) 校長を中心とした主体的な学校運営が必要である。各校の強みや弱みを把握し、解決の手立てを具体的にうっていき、また、学校だけで解決するのではなく、地域や関係機関、保護者の方、地域教材を活用しながら取組を進めることと考えている。</p>

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
.村山委員 (フューチャー 四日市)	道徳教育では「思いやり」が大切であると思 う。道徳教育の充実の中に、思いやりの視点 を入れてほしい。	(指導課長) 道徳教育の充実のリード文に「思いやる心」 と記載している。

令和3年8月議会(教育民生常任委員会:協議会)の質問質疑に対する答弁と今後の対応策等

◎コロナ禍における小中学校の取り組みについて

(指導課・教育支援課)

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
日置 記平 (政友クラブ)	○学校におけるコロナ対策について コロナ陽性者数が急激に下がることはないだろうから、陽性者発生時の対応について、最悪の状況を考えて対策を行う必要があるのではないか。	(学校教育課長) 今回、文科省から、学校で感染が確認された場合の対応ガイドラインが示されたが、陽性者発生時に必要となる濃厚接触者等の特定や検査について、四日市市ではガイドラインの発出前から、保健所と連携して行っている。今後も保健所が密に連携し、対応方法を学校へ示していく。
笹岡 秀太郎 (政友クラブ)	○学校におけるコロナ対策について ①新型コロナについて、学校三師とどのような連携を行っているのか。学校三師との連携について、資料に表記すべき。 ②自治会等、地域の方にも情報を共有し、同じ情報にて子どもたちへの対応をしていくべきではないか。 ③感染状況や学校の対応等について、滞りなく地域への配信をしてほしい。	(学校教育課長) ①学校医とは校内での感染症対策について相談しながら取り組んでいる。換気については学校薬剤師と相談してCO2センサーの配置が有効であるとのアドバイスをいただくなど、養護教諭を中心に学校三師と連携している。今後は資料への表記について留意していく。 ②地域関係者にもすぐメールを活用して、情報共有を行っている。 (指導課長) ③各学校で登録している地域関係者には、すぐメールで配信をしている。
森川 慎 (無会派)	○学校におけるコロナ対策について 国のガイドラインについて、参考に議会に提供してほしい。	(学校教育課長) 提供する。 「学校で児童生徒等や教職員の新型コロナウイルスの感染が確認された場合の対応ガイドライン」を資料提供した
小川 政人 (政友クラブ)	○学校におけるコロナ対策について 緊急事態宣言の延長により、学校活動について、市の対応も変わるのか。それは、市独自で考えるのか、国の対応をみながらの判断か。	(教育長) 国は教育活動を止めない方向で進めてきたが、一番に考えるべきは、子どもたちや市内の感染状況をどう判断するかである。今回、四日市市では今の感染状況を踏まえ、学校に児童生徒を集められないと判断し、個別登校やオンラインの対応に踏み切った。今後についても国の通知や指示に基づくだけでなく、感染状況を見ながら対応したい。
小田 あけみ (フューチャー 四日市)	○学校におけるコロナ対策について 学童と連携をとって対応を進めているか。	(指導課長) 連携をとって進めている。小学校1～3年生で一人で自宅で過ごすことが難しい場合は、学校でのオンライン学習を実施予定。

教育民生常任委員会

〔付 託 議 案〕

- 工事請負契約の締結について－市指定文化財「旧四郷村役場」復原・修理ほか工事－

令和3年8月議会 付託議案の質問質疑に対する答弁と今後の対応策等

◎工事請負契約の締結について(市指定文化財「旧四郷村役場」復原・修理ほか工事)

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
豊田 政典 (新風創志会)	総合評価方式簡易型による一般競争入札の結果、どのような点が評価され落札業者が決定したのか。	(社会教育・文化財課長) 文化財の価値を損ねることなく工事をする必要がある中で、耐震性向上のため施工上留意すべき部分の提案や、文化財保存のためなるべく既存のものを使う際の具体的な提案が評価された。

決算常任委員会 全体会

令和3年8月議会(決算常任委員会:全体会)の質問質疑に対する答弁と今後の対応策等

◎小中学校における除草作業について

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
伊藤 嗣也 (政友クラブ)	<p>①学校の除草や樹木剪定は本来誰がすべきものなのか。</p> <p>②資料には、教職員の日常業務とあるが、教育委員会はどのように考えているのか聞きたい。</p>	<p>(分科会長) ①色々な対応があり、学校間でも差があり、なるべく公平な対応にしていけることが必要という意味合いで議論した。実際に何校がどのように実施しているかの調査は、この委員会ではされていない。</p> <p>(教育監) ②除草作業は学校維持管理という点から学校に負うところが多い状況。教員の負担軽減を図るため、樹木の剪定は公費で行っている。学校による維持管理と、学校設置者である教育委員会の連携により進めていきたい。</p>
加納 康樹 (フューチャー 四日市)	除草作業に関し、専決事項報告で事故の報告を見かけるが、注意喚起の議論はあったか。	<p>(分科会長) 議論は無かった。</p> <p>(教育監) 教員の草刈機使用時における跳ね石が原因の事故が発生しており、使用方法について校長会を通じて周知徹底を行った。</p>

本 会 議
審 議 内 容

〔一般質問〕

令和3年8月議会(本会議)の質問質疑に対する答弁と今後の対応策等

◎一般質問

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
伊藤 嗣也 (政友クラブ)	<p>小学校におけるICTの活用に向けた外部人材との連携について</p> <p>①ICTサポートとICT支援員は、学校におけるICT教育の支援として配置されているが、それぞれの役割は異なるものである。新教育長としての見解と今後の活用を伺う。</p> <p>②今後、支援強化に向けた検討をするというが、どのようにすすめていくのか。</p> <p>③拡充に向けた具体的な計画はあるのか。</p> <p>④ICT支援員の求人広告を見ると教育委員会が求めている業務内容とかけ離れているが教育長の考えをききたい。</p> <p>⑤ICT支援員の受託業者との調整をもっとする必要があるのではないか。</p>	<p>(教育長)</p> <p>①ICT支援員は全小中学校月2回、ICTサポートは、ICT活用実践推進校に月2～3回派遣している。9月のオンライン授業の際には、準備や学校と家庭との接続等サポートしてもらい、学校も大変助かった。地元の人材を活かした支援体制の強化を検討する。</p> <p>②学級数の多い大規模校等において、ICTサポートなど地元人材を活用した支援の拡充を図っていく。</p> <p>③二十数学級程度の大規模な小学校への派遣や、社会見学、修学旅行等の事前学習時のICT支援など、必要なときに必要な支援を受けられるような体制が望ましいと考える。成果を上げているサポートのノウハウを生かした活躍の場を広げるとともに、さらなる人材の拡充に努める。</p> <p>④ICT支援員は、5年以上経験があるもの、また教育情報化コーディネータ3級以上を保有しているものが在籍することという条件がある。また新たに採用した支援員には24時間以上の研修をすることとしており、専門的な知識を持って支援にあたっていると認識している。</p> <p>⑤ICT支援員とICTサポートの棲み分けを明確にし、さらに学校のICT活用の推進に向けて検討を行う。</p>

令和3年8月議会(本会議)の質問質疑に対する答弁と今後の対応策等

◎一般質問

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>荻須 智之 (政友クラブ)</p>	<p>大矢知地区の教育問題のその後について ①市長が田中市長の立場であれば、環境問題と教育問題をどう解決したか、考えを伺う。</p> <p>②地元では若者から、朝明中の分離新設案に反対し、途中で市としての約束を破った市に対して厳しい意見が出てきている。今、大人に成長した彼らの声、心の傷をどう受け止めるか。</p> <p>③長距離自転車通学の問題と危険箇所の対策について、進捗状況はいかがか。</p>	<p>(市長) ①クリーンセンターの建設と学校建設問題を天秤にかけるべきではない、教育課題は全市的な教育的視点から解決を図る意思決定がなされるべきであると考えている。中学校の課題と小学校の課題は別々に解決を図っていくことが本市の行政にとって大切であるという方針は変わっていない。</p> <p>(教育長) ②方針の変更に際しては、保護者や地域に説明を行ってきた。これからも、大矢知地区の教育課題解決の取り組みを進めるにあたっては、地域や保護者への丁寧な説明を行う。(仮称)大矢知中学校での学校生活を楽しみにしていた子どもたちがいたことも伝えていただいたが、この時期は第2次四日市市学校教育ビジョンにおいて「将来、社会人として生きるために必要な問題解決能力を身に付けた子どもの育成」を目指して取組を進めていた。大矢知興譲小学校や朝明中学校の子どもたちも、解決の道筋が明らかでない問題に対し、主体的に対応していく資質・能力を育む教育を進めてきている。引き続き、大矢知地区や朝明中学校区の教育課題解決に努め、子どもたちによりよい教育環境となるように取組を進めていく。</p> <p>③文部科学省では、通学距離の適正基準を中学校では約6kmと定めている。朝明中学校にはこの基準を超える生徒はいない。一方、県道26号、通称八風街道を通行する箇所は、安全上の課題があることは認識しているため、都市整備部と共に、八風街道を回避するルートへの整備に向けた調査・検討、また、地元関係者との事前協議を進めている。さらに、道路標示等の交通安全対策について、警察との協議やルート上の土地所有者への協力依頼を行っている。通学路の課題解決に向けて、年度内に整備に着手できるよう関係者との協議を丁寧に進めていく。</p>
<p>笹井 絹予 (政友クラブ)</p>	<p>オンライン学習について ①オンライン学習について、どのような対応と工夫をされたか。</p> <p>②CBT方式どのように取り入れていくのか。</p>	<p>(教育長) ①9月1日から15日までの期間実施した。小中学校共に、朝の会・帰りの会を含めた5限授業を行った。子どもも教員もICTスキルが向上し、学力保障につなげることができたと考えている。</p> <p>②三重県の統一テスト「みえスタディチェック」で二学期に、CBTを取り入れたテストが試行され、全小中学校が参加する。また、第2回の「みえスタディチェック」は一部CBTを使って実施される予定であるため、子どもたちに経験させていく。</p>

令和3年8月議会(本会議)の質問質疑に対する答弁と今後の対応策等

◎一般質問

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>谷口 周司 (新風創志会)</p>	<p>通学路の安全対策について ①千葉県八街市の事故を受けて、調査した通学路の危険個所の把握件数と主な内容、合同点検の実施はどうなっているか。 ②三重県との連携協力体制はどういったものか。</p>	<p>(副教育長) ①八街の事故以前より四日市通学路交通安全推進会議において、合同点検の実施、各種対策の検討を行い、通学路の安全確保を行っている。八街市の事故を受けて調査した結果423件の危険箇所が報告された。関係機関と連携し、今後現地での合同点検を実施していく。 ②県道については、三重県四日市建設事務所、横断歩道等については、四日市南北西警察署と連携し、対策を進めていく。</p>
<p>後藤 純子 (フューチャー 四日市)</p>	<p>学校生活管理指導表の活用と学校給食について～食物アレルギーへの対応～ ①アレルギーがある児童生徒の割合は10年前に比べて増加しており、除去食対応の人数も増えている。アレルギー疾患のある児童生徒が安全な生活を送るために、学校生活管理指導表を活用し、どのように学校給食を提供しているか。 ②令和5年4月に給食センター供用開始が予定されている中学校給食でのアレルギー対応はどのように実施する予定か。 ③福岡市では、小学校給食の献立情報やアレルギー情報について、LINEで保護者に発信する「あんしん給食管理」というサービスを実施している。四日市市においても導入してはどうか。</p>	<p>(副教育長) ①主治医の診断をふまえた対応が必要なため、主治医が記入した「学校生活管理指導表」を基に保護者と面談を行い、除去が必要な献立と食材を毎月確認している。学校でも複数人でアレルギー対応食の内容や調理法、配食をチェックをしている。今後とも、アレルギーのある児童が安心して給食を食べられるよう、保護者、学校、医師と連携の上、対応していく。 ②中学校給食でも、「学校生活管理指導表」を基にアレルギー対応を行う予定である。これに加え、中学校では、生徒自らも給食におけるアレルゲンの有無について判断できる力をつけることが大切と考えるため、アレルギーについて学ぶ機会を設けたい。中学校給食の開始にあたり、これまでの小学校給食で培ってきたノウハウを活かしたマニュアルを策定し、教職員研修を実施するなど、食物アレルギーのある生徒が安心して喫食できる環境を整えていく。 ③LINEを導入している福岡市においても、除去食対応は、紙面にて保護者と学校がアレルギー献立表を確認したうえで、LINEを活用している。また、四日市市の小学校給食では、福岡市のように4種類ではなく、今年度は40種類以上の食材でアレルギー対応をしており、個々に応じた対応を入念にしている中、除去食対応食材のすべてを表示できない方法での情報発信は、混乱を招く恐れがあるため、LINEを使ったアレルギー情報の発信は、慎重に検討すべきと考える。中学校給食の開始に伴い、「献立システム」を導入予定であり、これにより、手作業による記載ミスを防ぐなど安全性が向上や作業の効率化が図られ、より安心安全な給食提供が可能になると考える。なお、給食献立情報については、現在稼働中の「四日市市公式LINE」において、できるだけ早く発信できるよう、関係課と実現に向けて取り組んでいきたい。</p>

予算常任委員会
教育民生分科会
〔一般会計補正予算
(第7号)〕

令和3年8月議会(予算常任委員会:分科会)の質問質疑に対する答弁と今後の対応策等

◎補正予算(魅力ある奨学金制度の創設事業)

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
豊田 政典 (新風創志会)	今回入学支度金のみ補正だと受けとめるが月額奨学金は50人分追加しないのか。	(教育総務課長) 月額奨学金は令和4年度に支給となるので、令和4年度当初予算で改めてお願いする予定である。
中川 雅晶 (公明党)	<p>①制度の周知については漏れの無いように周知して欲しい。より詳しい制度内容はホームページ等でより申請しやすいようにして頂けるか。</p> <p>②希望者が予定を超えた場合のセレクトの仕方については既に決めているのか。</p> <p>③今回コロナ対応分として50人追加とあるが、コロナが明ければこの50人は無くなるのか、応募の内容において再度精査するのか。</p> <p>④所得を指標にして低い方からセレクトしていくところで、子どもの中で分断が生じたりすることがあれば制度の意味がなくなるので、丁寧に、児童生徒の尊厳を守りながらやって頂きたい。(意見)</p>	<p>(教育総務課長)</p> <p>①既に各中学校、高校には校長会を通じてポスター、チラシを配布している。今回追加分も成立後に改めて周知する。また、ホームページや広報よっかいちへの掲載を予定しており、さらにいろいろな形で周知に努めていきたい。</p> <p>②家庭状況等に基づき所得が低い家庭から採用していく。</p> <p>③令和3年度の当初予算で計上している50人というのがベースであると現時点では考えている。</p>

令和3年8月議会(予算常任委員会:分科会)の質問質疑に対する答弁と今後の対応策等

◎補正予算(教育情報通信システム運営費)

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
<p>豊田 政典 (新風創志会)</p>	<p>①今回実施したオンライン授業の課題について教えてほしい。</p> <p>②オンライン授業に係る子ども目線からの課題については調査しているのか。</p> <p>③ICT支援員の募集について、未経験者でも可としているチラシについて、考え方を確認したい。</p> <p>④保護者としては、素人がICT支援員になれるのかと思うと不安である。一度、委託先と協議すべきではないか。</p>	<p>(教育監)</p> <p>①オンライン授業によって、コロナ禍においても学習が継続できたことが最大の効果である。また、生徒たちがオンラインでつながることで不安が解消したということも聞く。</p> <p>しかし、通信環境が安定せず、落ち着いて授業に臨めなかったという部分があり、課題と認識している。オンライン授業の内容についても学校間格差が生じているので、よい事例は学校間で共有していきたい。</p> <p>また、コミュニケーションや表現の力を学ぶことはオンライン授業では限界があるため、学校再開時にこの点をどう身に付けさせるかが課題と認識している。</p> <p>(教育支援課長)</p> <p>②各学校でどのような授業をしたのか、子どもの反応、教師の意見を含めて総括している。今回の経験を一つの財産として、今後のICT活用に生かしていきたい。</p> <p>③ICT支援員募集の文言については把握しているが、実際は要綱に沿った研修を受けた上で、スキルを持った方が来ていただいております。校内でシステム構築に携わったり、研修をしているため、学校として困っているということはない。</p> <p>(教育長)</p> <p>④委託業者と協議していきたい。</p>
<p>中川 雅晶 (公明党)</p>	<p>今のモバイルWi-Fiルーターのやり方がいいのか、通信料の補てんをしていく方がいいのか、今後の方針について教えてほしい。</p>	<p>(教育支援課長)</p> <p>モバイルWi-Fiルータは緊急時の対応として、市内一斉の臨時休校などの場合に貸出している。今後、タブレット端末を日常的に家庭に持ち帰るようになった際には、基本的に通信料は家庭負担となるので、そういったことの周知とともに、他の対策も考えていかななくてはならないと考えている。</p>
<p>土井 数馬 (市民eyes)</p>	<p>コロナ対応を機にオンライン授業が始まったが、非日常が日常になり、コロナ以前には戻れないため、そういった視点でしっかりと進めてほしい。(意見)</p>	

令和3年8月議会(予算常任委員会:分科会)の質問質疑に対する答弁と今後の対応策等

◎補正予算(学校給食費返還等事業費)

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
豊田 政典 (新風創志会)	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う休校のために給食が中止となったが、給食関係事業者には、キャンセル料を払っていなかったのか。また、今回のような給食中止に伴うキャンセル料について、契約上定めておらず、コロナという緊急事態のため、支払うという判断か。</p> <p>今後は契約の結び方も、そのあたりを考慮してほしい。</p>	<p>(学校教育課長)</p> <p>今回、給食が中止となったことに伴って発生するキャンセル料について、契約上の定めはなかった。令和2年度の学校休業の時と同様に、今回も補正予算を要求し、支払うこととしたい。</p>
笹岡 秀太郎 (政友クラブ)	<p>学校給食関係事業者等の「等」は、どのような事業者となるのか。</p>	<p>(学校教育課副参事)</p> <p>今回の補正で対象となるのは、学校給食関係事業者のみである。昨年度の同事業の補正予算の際には、3月分給食費の返還が必要であり、振替手数料を金融機関に支払ったため、給食関係事業者等であった。</p>
中川 雅晶 (公明党)	<p>今後も継続的に事業をしていただくという観点から、補償は必要だと考えるが、給食休止により、どの部分に損害が出たため、補償が必要と考えたのか、教育委員会の考え方を聞きたい。</p> <p>また、その額についてはどのように考えるのか。</p>	<p>(学校教育課副参事)</p> <p>キャンセル分の具体的な費用として、例えば、給食で使えなかったため、事業者側で処分した食材の経費を想定したが、これは事前に給食をストップできたため、対象がなかった。その他、既に発注してしまった食材に係る違約金として、例えば、炊飯やパン、牛乳の加工賃、購入した冷凍食品を次の献立まで事業者で保管してもらうための冷凍庫代、食材に含まれる配送代といった経費となる。</p> <p>昨年3月に全国一斉で学校休業した際に、各食材の業界団体が計算した基準があるため、それを基に各事業者にて算出をした金額となる。</p>

令和3年8月議会(予算常任委員会:分科会)の質問質疑に対する答弁と今後の対応策等

◎補正予算(学校教育活動継続支援経費)

質問議員(会派)	質問・質疑等要旨	答弁者及び答弁要旨
豊田 政典 (新風創志会)	各学校の必要なものを把握した上で計上しているのか。各学校の希望を尊重してほしいが、余分なものを購入することがないように、教育委員会で管理をしっかり行うべきと考えるがどうか。	(学校教育課長) 各学校から、感染症対策等に必要なものを挙げてもらっているが、効果的な取組事例が各学校にも伝わるので、それらを踏まえ各学校で購入物品を決定している。 また、事業の対象かどうかの問い合わせがあるので、その都度確認し購入計画を立てている。各学校の良い取り組みは積極的に紹介し、不適切な物品購入については厳正に管理していく。